



# 履修要項

令和3年度 入学生用

*Nagoya Women's University*

名古屋女子大学 健康科学部

# 目次

はじめに	3
I. 単位制度について	4
II. 卒業要件について	5
ディプロマポリシー（学位授与の方針）	5
III. 教育課程	7
カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）	7
全学共通科目	11
健康栄養学科	12
1. 教育目的について	12
2. 授業科目について	12
3. 教育課程について	14
カリキュラムマップ	17
カリキュラムツリー	18
看護学科	20
1. 教育目的について	20
2. 授業科目について	20
3. 3年次への進級要件について	22
4. 教育課程について	24
カリキュラムマップ	26
カリキュラムツリー	28
教育の基礎的理解に関する科目等	31
カリキュラムマップ	32
カリキュラムツリー	33
IV. 免許・資格	34
1. 教員免許状	34
〔教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目〕	35
栄養教諭一種免許状	36
〔栄養に係る教育に関する科目〕	36
〔教育の基礎的理解に関する科目等〕	36
2. 管理栄養士（健康栄養学科）	37
3. 食品衛生監視員および食品衛生管理者（健康栄養学科）	40
4. 看護師（看護学科）	41
5. 保健師（看護学科）	42
履修モデル（看護師コース）	44
履修モデル（保健師コース）	46

<b>V. 海外留学</b> .....	48
「留学」について .....	48
<b>VI. 履修の案内</b> .....	49
1. 履修登録について .....	49
2. 授業及び試験について .....	51
<b>授業</b> .....	51
〔1〕授業の開講形態／〔2〕授業時間割／〔3〕授業・試験時間／〔4〕休講／〔5〕補講／	
〔6〕欠席・遅刻・早退	
<b>試験</b> .....	52
〔1〕試験の種類と方法／〔2〕期末試験／〔3〕追試験／〔4〕やむを得ない理由を証明する書類／〔5〕再試験／〔6〕追・再試験手続一覧／〔7〕受験資格／〔8〕受験時の諸注意（期末試験、追・再試験）	
3. 成績について .....	56
〔1〕成績の評価・単位の認定／〔2〕成績の通知／〔3〕成績の問い合わせ	
4. GPAについて .....	57
5. 単位互換制度について .....	58
<b>教務関係の用語</b> .....	59

## はじめに

大学は、小学校、中学校、高等学校の勉学の仕方と、大きく異なる点があります。それは、何に対しても、これまでのように指示を待つのではなく、自分から学ぼうとする姿勢を持たねばならないということです。その際にこの『履修要項』が大きな役割を果たすことと思います。卒業する時まで必要に応じて活用し、単位数が不足して卒業できないということのないよう十分注意してください。

まず最初に、単位制度と卒業要件の説明があります。大学では単位制が採用され、卒業に必要な単位数が決められています。また、修得した単位には、あらかじめ決められた必修科目と選択科目が含まれていなければ卒業できません。

次に教育課程（カリキュラム）が掲載されています。どの授業科目を履修するかを決めるときは、「授業計画（シラバス）」とともに参考にしてください。免許や資格については、IV. 免許・資格 で、留学については、V. 海外留学 で詳しく説明しています。

それから、履修の案内があります。単位を修得するためには履修登録をしなければなりません。期日が決められている上、なかなか面倒な手続きです。この要項をよく読んで、提出期限に遅れたり、手続き方法を間違えたりしないよう十分注意してください。もし提出が遅れると授業が受けられません。そのほか、授業時間、試験や成績のことについても書かれていますので、必ず目を通しておいてください。

学生の皆さんは、卒業まではこの『履修要項』を座右において、必要に応じてこの冊子を活用するようにしてください。また十分理解できないときは学生支援センターでたずねてください。



# I. 単位制度について

大学の授業科目の履修には、大学設置基準に基づく単位制を採用しています。

- 1) 単位制とは、各年次に配当されている授業科目を履修して、その授業科目に定められている単位を修得(所定の試験に合格)し、これらの単位を一定数蓄積することにより卒業(あるいは各種免許・資格が取得)できる制度をいいます。
- 2) 単位とは、一つの授業科目の修得に必要な時間を示す基準であり、試験(筆記、レポート等)に合格することにより、その授業科目の単位の修得が認められます。1単位を修得するには、授業時間と授業時間外に必要な学修等をあわせて45時間の学修時間を必要とします。
- 3) 大学の授業時間は、通常45分を「1時間」の授業とみなし、「2時間」(=90分)の授業が基本の授業時間です。
- 4) 授業科目は、その内容、形態により講義、演習、実験・実習及び実技のいずれかの種類に分けられ、それぞれ1単位当たりの学修に必要な時間数(単位計算基準)が次のように定められています。

## 講義科目 (1単位に必要な授業時間数は15時間)

- 1 単位の場合 (毎週2時間の授業)×7.5回……………半期科目
- 2 単位の場合 (毎週2時間の授業)×15回……………半期科目
- 4 単位の場合 (毎週2時間の授業)×30回……………通年科目

## 演習科目 (1単位に必要な授業時間数は30時間)

- 1 単位の場合 (毎週2時間の授業)×15回……………半期科目
- 2 単位の場合 (毎週2時間の授業)×30回……………通年科目

## 実験・実習・実技科目 (1単位に必要な授業時間数は45時間。ただし、全学共通科目<体育・健康科目>のスポーツ1、2に必要な授業時間数は30時間)

- 1 単位の場合 (毎週3時間の授業)×15回……………半期科目
- 2 単位の場合 (毎週3時間の授業)×30回……………通年科目

各科目の授業形態、単位数、授業時間数(週時間数)は、「Ⅲ. 教育課程」の表を参照してください。  
なお、半期科目、通年科目は次に示すとおりです。

### 半期科目(前期科目、後期科目)

前期または後期の半年間原則として授業を行い、半年ごとに単位認定をする科目

### 通年科目

1年間30回授業を行い、1年ごとに単位認定をする科目

# Ⅱ．卒業要件について

## ディプロマポリシー（学位授与の方針）

### 健康科学部

健康科学部のディプロマポリシーは、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体性・多様性・協働性」の3つのカテゴリーで構成されています。学位授与の規定では、2学科が定める所定の単位を修得し、学士力、専門職能を身に付け、女性のもつ能力を活かした専門的職業人としての使命感や責任感が持てる人であることが求められています。さらに、多世代にわたる対人関係力を身につけ、社会の一員として適切な行動ができている人に学位を授与します。

### 健康栄養学科

健康の維持増進のための栄養的手段がどの様に健康に役立つかを学び、管理栄養士業務が人を対象とした業務であることを理解し、心理学的スキルを含めた健康および栄養についての理論的、実践的専門知識・技能を身につけ、学科の教育課程に定める単位を修め、次の資質能力を備えた学生に卒業を認定し、学士（健康栄養学）の学位を授与します。

具体的到達目標を「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体性・多様性・協働性」の3つのカテゴリーで示します。

- 1) 知識・技能：食物学や栄養学を中心に幅広く学修し、管理栄養士に必要な基礎知識と応用力を身につけていること。
  - ・食物や栄養、病態について科学的根拠に基づく正しい知識・技能を習得し、医療、介護、福祉、保健、教育等の場において、適切な栄養管理、栄養指導を行うことができる。
  - ・咀嚼、嚥下、口腔健康管理に関する知識を習得し、さまざまな対象者における口腔健康管理や高齢者における嚥下リハビリ指導を行うことができる。
  - ・生命と人間の尊厳、倫理観、博愛などの医療人として必要な理念を理解し、対象者の人格を尊重して良心と愛情をもって接することができる。
- 2) 思考・判断・表現：食物や栄養に関する事柄について、問題点を把握し解決するための思考力と判断力を身につけ、さまざまな対象者の意見を聞き、それに対する自分の考えや知識を正確に伝えることができる表現力があること。
  - ・対象者の身体状況を正確に把握し、適切な栄養管理、栄養指導のプランを計画できる。
  - ・対象者に咀嚼の意味、噛むことの重要性を伝えることができ、個々に必要な口腔健康管理や食事指導を計画して支援することができる。
  - ・対象者から情報を引き出すとともに適切なアドバイスを分かりやすく伝えるコミュニケーション能力を身につけている。
- 3) 主体性・多様性・協働性：管理栄養士養成課程での学修を基に、常に研鑽を積み、新たな問題や課題に対して積極的に取り組み、責任ある行動や言動ができること。
  - ・複雑化した健康問題に対して、多様な角度から情報を収集・分析し、自ら行動して問題を解決しようとする実行力を持っている。
  - ・「医療施設におけるチーム医療」や「在宅医療における多職種連携」で協働する医師や看護師などの他の専門職との相互理解に主体的に取り組むことができる。

### 看護学科

看護専門職者としての知識・技術・態度を習得しており、「親切」の語源である“身近に寄り添い・行き届く看護”を目指し、人々の健康の維持・増進、疾病の予防に貢献できる人に学位を授与します。

- 1) 豊かな人間性を持ち、医療専門職者に必要とされる「人間および生命の尊厳」に対し真摯に向き合うことができること(知識・技能, 思考・判断・表現)。
- 2) 専門分野における知識・技術・態度を備え、科学的思考力のもと効果的に看護を実践するための問題解決に向けての方略を選択し、よりの確な看護実践ができること(知識・技能)。
- 3) 保健・医療・福祉・看護に関する総合的な視野を持ち、専門的知識や技術を獲得するために能動的に自己啓発を続け、専門職への意識向上に繋げることができること(主体性・多様性・協働性)。
- 4) 自己理解を深め、基本的なコミュニケーション・スキルを獲得し、他者の主張を尊重する人間関係力を構築することができ、医療チームの中で多職種と有効かつ協力的にコミュニケーションをとり、専門職として責任ある行動がとれること(思考・判断・表現)。
- 5) 地域的・国際的動向に関心を持ち、医療・保健・福祉の課題と看護職者の役割を展望することができること(主体性・多様性・協働性)。

大学を卒業するためには、4年以上在学し、学科ごとに定める教育課程に従って授業科目を履修し、次の表に示す所定の単位数以上を修得しなければなりません。

#### 【健康栄養学科】

授業科目の区分		卒業に必要な単位数		
		授業科目の区分ごとに定める必要単位数	自由選択科目	合計
全学 共通科目	人間形成科目	必修3単位を含めて、10単位以上	30単位以上	127単位以上
	一般教育科目			
	芸術科目			
	情報・表現科目			
	体育・健康科目			
	外国語科目	必修4単位を含めて、8単位以上		
健康科学部 共通科目	基礎関連科目	必修76単位を含めて、79単位以上		
学科専門科目				

#### 【看護学科】

授業科目の区分		卒業に必要な単位数	
		授業科目の区分ごとに定める必要単位数	合計
全学 共通科目	人間形成科目	必修7単位を含めて、11単位以上	127単位以上
	一般教育科目		
	芸術科目		
	情報・表現科目		
	体育・健康科目		
	外国語科目		
健康科学部 共通科目	基礎関連科目	必修112単位を含めて、116単位以上	
学科専門科目			

#### 単位互換科目

県内すべての4年制大学が加盟する愛知学長懇話会において締結された「単位互換に関する包括協定」に基づき他大学で単位互換向けに開放される科目及び、「名古屋女子大学と名古屋女子大学短期大学部の単位互換に関する協定書」に基づき名古屋女子大学短期大学部で開放される科目を履修し、本学の単位として卒業要件の自由選択科目に算入できる制度があります(健康栄養学科のみ)。詳しいことは学生支援センターにお問い合わせください。名古屋女子大学短期大学部との単位互換制度については58ページを参照してください。その他、他大学開放科目等、他大学が開放している授業科目で単位認定証明のあるものを含みます。

# Ⅲ. 教育課程

## カリキュラムポリシー(教育課程編成・実施の方針)

### 健康科学部

健康科学部は、建学の精神であり学園訓である「親切」を根幹としており、教育課程では、「個々の人格を陶冶し、かつ高い教養を身に纏った力強い職能人としての女性を育成する」ことを目的に、これを達成するため、第一に、学士力向上を目標として教養科目、外国語科目などを家政学部・文学部と可能な限り共通で設け、幅広い視野に立った豊かな人間性を育成します。第二に、2学科それぞれに多くの専門科目を開設し、有機的連携を保ちつつ、体系的な教育課程を実現します。健康栄養学科においては、将来管理栄養士として活躍できる人材を養成するために必要な専門科目を多く設け国家試験合格を支援しています。看護学科においては、健康科学についての基本的な認識を土台として、看護の職務を遂行する上で必要となる専門的な知識と技術の修得のための専門科目を多く設置しています。学部全体(学士課程)では、女性として活かしたコミュニケーション能力をもち、専門職域のリーダーとして社会貢献のできる人材を育てるための教育課程を編成しています。

### 健康栄養学科

#### 1. 教育課程の編成目標

ディプロマポリシーの達成に向け、栄養学の領域はもとより、特に、医療系職能育成における専門知識と技術、科学技術の進展やグローバル化に対応できる専門知識と技術を習得し、看護医療職とも連携できる管理栄養士としての能力を育成します。

#### 2. 教育課程の編成と特色

##### 1) セメスター制とGPA

セメスター制を導入し、一年を前期と後期に分け、半期ごとに完結する授業を行います。これにより、学生は半期ごとに単位履修状況を見直し、管理栄養士国家試験受験資格や栄養教諭一種免許状などの取得可能性について確認できます。また、GPA(Grade Point Average)を活用して学生指導を充実させます。

##### 2) 全学共通科目の設定と充実

大学での学びの導入として、初年次セミナーを1年次において履修し、大学生活における学修の目標を見定め、専門科目の履修目的の確認やモチベーションの高揚を目指します。また、「学士力」育成を目指し、人間形成、一般教育、外国語、情報・表現などのカテゴリーに分けた全学共通科目を可能な限り選択できるよう設置します。

##### 3) 専門科目群

管理栄養士養成課程として、理論と実践の一体的な専門教育をめざしたカリキュラムを以下のカテゴリーに区分するとともに必修・選択等の割合を適切に配置して系統的に編成します。なお、看護学科との連携のもと学部共通の基礎科目群を設置します。

- (1)「基礎関連科目(学部共通科目)」(必修3科目、選択3科目：講義5科目、演習1科目)
- (2)「学科基礎科目」(必修2科目、選択2科目：講義1科目、演習2科目、実験1科目)
- (3)「口腔と健康」(必修4科目：講義3科目、演習1科目)
- (4)「社会・環境と健康」(必修2科目、選択2科目：講義3科目、実験1科目)
- (5)「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」(必修8科目、選択4科目：講義8科目、実験4科目)
- (6)「食べ物と健康」(必修8科目、選択2科目：講義4科目、実験4科目、実習2科目)
- (7)「基礎栄養学」(必修1科目、選択1科目：講義1科目、実験1科目)
- (8)「応用栄養学」(必修3科目、選択1科目：講義3科目、実習1科目)



- (9)「栄養教育論」(必修3科目、選択1科目：講義3科目、実習1科目)
  - (10)「臨床栄養学」(必修4科目、選択3科目：講義4科目、実習3科目)
  - (11)「公衆栄養学」(必修2科目、選択1科目：講義2科目、実習1科目)
  - (12)「給食経営管理論」(必修4科目、選択1科目：講義2科目、実習2科目、演習1科目)
  - (13)「総合演習」(選択2科目：演習2科目)
  - (14)「臨地実習」(選択2科目：実習2科目)
  - (15)「発展・応用科目」(選択10科目：講義5科目、演習4科目、実習1科目)
    - (15)-1「看護・医療」(選択4科目：講義2科目、演習1科目、実習1科目)
    - (15)-2「健康科学」(選択3科目：講義3科目)
    - (15)-3「グローバルコミュニケーション」(選択3科目：演習3科目)
  - (16)「学科間連携科目」(選択4科目：講義4科目)
  - (17)「栄養教諭」(選択2科目：講義2科目)
  - (18)「総合科目」(選択2科目：講義1科目、演習1科目)
  - (19)卒業研究(選択6単位)
- 4) 学修成果測定
- (1) ルーブリックによる学修成果の可視化を図ります。
  - (2) 学修(e)ポートフォリオによる学修成果の蓄積を行っていきます。
  - (3) 管理栄養士が必要とする学修成果や学修達成度、専門知識・技能に関する卒業研究(発表・論文)の講評を行います。
- 5) 学修環境
- (1) 管理栄養士の資格取得に必要な科目配置を行います。
  - (2) 管理栄養士の資格取得に必要な学修の統合のための科目「健康栄養学総合演習」を設置します。
  - (3) 総合学修のための自習室を準備します。

## 看護学科

### 1. 教育課程の編成目標

ディプロマポリシーに掲げた目標の達成に向け、看護学の領域はもとより、特に、医療系職能育成における専門知識と技術、科学技術の進展やグローバル化に対応できる専門知識と技術を習得し、多職種とも連携できる看護専門職者としての能力を育成します。

また、教育課程においては、本学の強みである“人の生きる力を創る幼児教育”と“人の生きる力の基本を創る『食と生活』の健康栄養学”の異分野融合による特色ある教育をめざします。

- 1) 大学での学びの導入として、初年次セミナーを1年次において履修し、大学生活における学修の目標を見定め、専門科目の履修目的の確認やモチベーションの高揚と総合的に“人”“生活”を捉え多面的なケアを担う基礎をめざします。また、「学士力」育成をめざし、人間形成、一般教育、外国語、情報・表現などのカテゴリーに分けた全学共通科目を可能な限り選択できるように科目を配当します。
- 2) 学園訓「親切」の心をこれまでの100年とこれからの100年をつなぐ役割を担い、その心を未来に橋渡しするという考え方を基盤として、「人間」「環境」「食」「福祉」「健康」「看護」の概念のもとに「看護学」を構築します。
- 3) 医学・保健学・福祉学などの近接領域の知識や技術を身に付けることをねらいとし、「健康と食」「健康と心」「健康と支援」「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復促進」の5領域で体系化しています。この科目内では、本学の特色である『食と生活』に焦点を当てた、噛む(『食=噛む』)ことと脳の活性化や、噛む力を維持するための口腔ケアなども学ぶ授業展開とします。

4) 健康栄養学科との連携を図るため、二段階で学科間連携科目を設置します。第一段階では「健康の基盤は栄養であること」を重視した基礎的な必修科目群を開講し、第二段階では臨床的観点から栄養学を学修するための学科間連携科目群を選択できるように環境を整えます。

## 2. 教育課程の編成と特色

### 1) セメスター制と GPA

セメスター制を導入し、一年を前期と後期に分け、半期ごとに完結する授業を行います。これにより、学生は半期ごとに単位履修状況を見直すことが可能となり、GPA (Grade Point Average) を活用した学生指導を充実させることができます。

### 2) 学修成果測定

- (1) ルーブリックによる学修成果の可視化を図ります。
- (2) 学修(e)ポートフォリオによる学修成果の蓄積を行っていきます。
- (3) 年次で学科が必要と定めている教科目の修得結果が、学科の定める規準を満たし、3年次以降の教科目を履修する基礎レベルに達しているかを確認する進級基準を設けています。
- (4) 看護師が必要とする学修成果や学修達成度、専門知識・技能に関する「卒業研究(発表・論文)」の講評を行います。

### 3) 学修環境

- (1) 看護師・保健師の国家試験受験資格取得に必要な科目配置を行います。
- (2) 授業担当者とクラス担任の緊密な連絡と情報交換により、きめ細かい指導を行います。
- (3) 授業以外における看護基礎技術のきめ細かい指導を行います。
- (4) 授業時間以外の基礎看護学実習室・成人看護学実習室の開放を行います。

●教育課程(カリキュラム)は、全学共通科目、学部共通科目と専門科目にわけて編成されています。そしてそれぞれに修得しなければならない最低単位数が定められています。また、各授業科目の区分には必修科目と選択科目および選択必修科目があり、体系的に修得するように各年次に配当されています。授業科目を選択する場合は、系統図(カリキュラムツリー)をよく見て考えてください。例えば、科目間の矢印や、1や2と番号が振られている科目を2から先に選択すること、また、講義の前に演習や実習を選択することは避けてください。

#### 必修科目

各学科の教育課程のうち、必ず単位を修得しなければならない科目

#### 選択科目

各学科の教育課程のうち、自由に選択して単位を修得することができる科目

#### 選択必修科目

各学科の教育課程のうち、特定の科目の中から一定の単位を必ず修得しなければならない科目

●上記のほか学科によっては、各種免許・資格に関する授業科目が開設されています。これらは、卒業の要件に含まれない科目もありますが、いずれもその免許・資格を取得する上で必要な科目です。



全学共通科目

健康科学部開講科目

授業科目	授業形態	単位数		週時間数								栄教一種免	保健師	備考			
		必修	選択	1年		2年		3年		4年							
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期						
科人間形成目	建学のこころ	講義	1		○												
	総合女性学	講義	2			2		2									
	キャリア入門	講義	2			2		2									
一般教育科目	哲学の方法	講義	2			2		2									
	心のしくみ	講義	2		2		2				2					健康栄養学科は1・2年 看護学科は1・2・4年	
	文学の表現と鑑賞	講義	2			2		2									
	歴史に学ぶ	講義	2			2		2			2					健康栄養学科は2・3年 看護学科は2・4年	
	国際事情	講義	2	2		2											
	日本国憲法	講義	2		2		2					2	◎	◎			
	くらしの経済	講義	2	2		2											
	生活と地理	講義	2	2		2			2								健康栄養学科は2・3年 看護学科は1・2年
	数学の世界	講義	2			2			2			2					健康栄養学科は2・3年 看護学科は2・4年
	一般化学	講義	2	2		2											
	生命のしくみ	講義	2	2		2											
生活の物理	講義	2		2		2					2					健康栄養学科は1・2年 看護学科は1・2・4年	
地球環境と人間	講義	2		2		2					2					健康栄養学科は1・2年 看護学科は1・2・4年	
初年次セミナー	講義	2		2													
芸術科目	音楽	演習	1			2		2									
	美術	演習	1				2		2		2						
	書道	演習	1				2		2		2						
外国語科目	Basic English 1	演習	1		2								◎	◎			
	Basic English 2	演習	1			2							◎	◎			
	Advanced English 1	演習	1			2											
	Advanced English 2	演習	1				2										
	総合英語 A - 1	演習	1		2								◎	◎			
	総合英語 A - 2	演習	1			2							◎	◎			
	総合英語 B - 1	演習	1			2											
	総合英語 B - 2	演習	1				2										
	初級フランス語 1	演習	1	2		2											「初級フランス語2」または「初級中国語2」または「初級フランス語1」または「初級中国語1」を履修していないと履修できません。また「初級フランス語1」または「初級中国語1」が「不合格」または「不合格」になった場合は、「初級フランス語2」または「初級中国語2」は履修できません。
	初級フランス語 2	演習	1		2		2										
	中級フランス語	演習	1			2			2								「中級フランス語」「中級中国語」は、「初級フランス語2」「初級中国語2」の単位を取得していないと履修できません。
初級中国語 1	演習	1	2		2												
初級中国語 2	演習	1		2		2											
中級中国語	演習	1			2			2									
情報・表現科目	情報処理演習 1	演習	1	2									◎	△			
	情報処理演習 2	演習	1		2								◎	△			
	日本語表現法 1	演習	1	2													
	日本語表現法 2	演習	1		2												
体育健康科目	健康科学	講義	2	2		2										◎	
	スポーツ 1	実技	1	2		2							◎	△			
	スポーツ 2	実技	1		2		2						◎	△			

- (注) 1. 栄養教諭一種免許状、保健師国家試験受験資格(養護教諭二種免許状に必要な科目を含む)を取得するためには、◎印(必修)の単位を修得すること。  
 2. 保健師国家試験受験資格に合わせて養護教諭二種免許状を卒業後に申請するには、◎印の科目に加えて△印の科目を必ず履修すること。  
 3. 開講学年・時期は各年度の授業計画により変更する場合がある。



## 1. 教育目的について

栄養学の領域はもとより、特に、医療系職能育成における専門知識と技術、科学技術の進展やグローバル化に対応できる専門知識と技術を修得し、看護医療職とも連携できる管理栄養士の育成を目的とします。

## 2. 授業科目について

私たちの食生活の現状は、嗜好や経済状況などに応じてさまざまな食物を手に入れることができ、食の外部化とも相まって多様で豊かな食生活を営んでいるようにみえます。しかし、食物や栄養と健康に関する正しい知識と技術が不十分であることから、栄養のアンバランスを生むことにもなり、生活習慣病をはじめとする慢性疾患の増加が問題となっています。また、少子化・超高齢化のなかで疾病構造は大きく変化しています。「食と健康」の問題を解決することは社会的課題となっており、将来ますます食物・栄養分野の専門家の役割と重要度が高まっていくでしょう。

このように、健康をめざした「食」分野からの問題解決が求められている状況に対応して、健康栄養学科は次のことを教育のねらいとしています。

- (1) 傷病者の病態の改善に、栄養の立場からチーム医療の一員として貢献できる能力を養います。
- (2) 小児、高齢者など各ライフステージにおいて、身体状況、栄養状態の改善のために計画、実践、評価ができる総合的能力を養い、地域保健に貢献できる人材を育成します。
- (3) 食品の安全性、嗜好性、機能性など、食品に関する幅広い専門的知識を習得した食の専門家を養成します。
- (4) 保健、医療、福祉活動のグローバル化に対応し、国際健康栄養演習(海外研修)を通して国際感覚豊かな管理栄養士の育成をめざします。

以上のような教育目標を達成するために、健康栄養学科では理論と実践の一体的な教育をめざしたカリキュラム編成をしています。

なお、指定の科目を履修すれば、卒業と同時に栄養士免許証と管理栄養士免許取得のための国家試験受験資格が得られます。さらに、所定の科目を履修すれば、食品衛生監視員および食品衛生管理者の任用資格が得られます。また、栄養教諭科目ならびに教育の基礎的理解に関する科目等を履修すれば栄養教諭一種の免許状が取得できます。

### 全学共通科目・基礎関連科目(健康科学部共通科目)

幅広い視野に立った豊かな人間性を育成し、専門科目の学修の基礎づくりをします。

### 専門科目

専門科目は専門基礎分野と専門分野に分かれています。専門基礎分野は健康と栄養・食物をめぐる諸問題を科学的に考えるために必要な知識を修得する科目群であり、専門分野は専門基礎知識に基づいて具体的な方法と技術を修得する科目群です。また、管理栄養士としての総合力を修得し、問題を解決する能力を高めるための総合科目群があります。

#### [専門基礎分野]

- \* 学科基礎科目：管理栄養士導入教育ならびに化学や生物などの基礎的な科目について修得します。
- \* 口腔と健康：口腔健康管理および摂食嚥下機能に関する知識を修得します。
- \* 社会・環境と健康：社会や環境と健康の関わりについて理解します。
- \* 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち：人体の構造や機能を系統的に理解した上で、主要疾患の成因、

病態、診断、治療等を学びます。

- \* 食べ物と健康：食品の各種成分、加工、調理について学び、人体の栄養面や安全面などへの影響、衛生管理の方法、評価を理解します。

### 〔専門分野〕

- \* 基礎栄養学：エネルギー、栄養素の代謝とその生理的意義を理解します。
- \* 応用栄養学：妊娠や発育、加齢などライフステージにおける身体状況や栄養状態に応じた栄養管理の考え方や方法について理解します。
- \* 栄養教育論：健康・栄養状態、食行動、食環境等に関する情報の収集と分析を行い、それらを総合的に評価・判定する能力を養い、対象に応じた栄養教育のあり方と方法を修得します。
- \* 臨床栄養学：傷病者の病態や栄養状態に応じた具体的な栄養管理方法について修得します。
- \* 公衆栄養学：地域における保健・医療・福祉・介護システムの中で、適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントに必要な理論と方法を修得します。
- \* 給食経営管理論：給食運営や関連の資源を総合的に判断し、マネジメントを行う能力を養います。

### 〔総合科目群〕

- \* 総合演習：管理栄養士として必要な専門分野の知識および技能について統合をはかります。
- \* 臨地実習：医療機関、特定給食施設、保健所などの実践活動の場において、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識と技能を修得します。
- \* 発展・応用科目：社会に対応した、より実践的、実用的な知識・技能を学び、特殊技能を併せ持った実践的職能人としての能力を養います。また、「国際健康栄養演習(海外研修)」では世界のトップレベルにあるアメリカの登録栄養士の活動状況について講義や見学などを通して学ぶとともに、ホームステイによって英語によるコミュニケーション能力を高めます。
- \* 学科間連携科目：看護学科との連携をはかるために、看護学科で開講されている科目のうち、本学科の教育目的と関連の深い講義について選択できます。
- \* 栄養教諭科目：栄養教諭の役割、食育の意義、食に関する教育の理論と方法について学ぶとともに、子どもの食をとりまくさまざまな課題の解決に取り組むことができる能力を養います。
- \* 総合科目：「アカデミックスキルズ」は食物学および栄養学分野の先端研究への理解を深めるために、卒業研究と連動させて文献検索、文献紹介、専門用語解説などの講義とともに論文を講読します。「健康科学特論」は看護学科との連携科目で、カンファレンス形式による看護学科の学生との合同授業として、病態のアセスメント及び治療に関する演習を行います。
- \* 卒業研究：卒業研究は専門領域に関する研究を通して自己実現をはかることをめざします。

3. 教育課程について

健康栄養学科 専門科目

授業科目		授業形態	単位数	週 時 間 数								履修コース		
				1年		2年		3年		4年				
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	A
基礎関連科目 (学部共通科目)	健康科学概論	講義	2		2									
	基礎ゼミナール	演習	1			2								
	基礎化学(有機化学を含む)	講義	2			2								
	基礎生物学	講義	2		2									
	情報処理概論	講義	2		2									
	基礎統計処理	講義	2						2					
科学基礎	健康栄養学	講義	2		2									
	栄養の基礎化学演習	演習	1		2									
	栄養の基礎生物学演習	演習	1		2									
	健康栄養学基礎実験	実験	1		3									
口腔と健康	口腔健康管理学	講義	2		2									
	口腔保健衛生学	講義	2					2						
	摂食嚥下リハビリテーション学	講義	2						2					
	口腔健康管理学演習	演習	1							2				
社会・健康	健康管理概論	講義	2		2									
	公衆衛生学	講義	2		2							○	○	
	公衆衛生学実験	実験	1			3						○	○	
	社会福祉概論	講義	2						2			○	○	
人体の構造と機能及び	解剖生理学 1	講義	2		2							○	○	
	解剖生理学 2	講義	2		2							○	○	
	解剖生理学実験	実験	1			3						○	○	
	構造生化学	講義	2		2							○	○	
	代謝生化学	講義	2			2							○	
	生化学基礎実験	実験	1		3							○	○	
	生化学応用実験	実験	1						3			○	○	
	運動生理学	講義	2						2			○	○	
	運動生理学実験	実験	1							3			○	
	病態と治療の基礎	講義	2			2							○	
病態と治療(疾病論) 1	講義	2					2					○		
病態と治療(疾病論) 2	講義	2						2					○	
食べ物と健康	食品学総論	講義	2			2						○	○	
	食品学各論(食品加工学を含む)	講義	2			2						○	○	
	食品学基礎実験	実験	1			3						○	○	
	食品学応用実験	実験	1					3					○	
	食品衛生学(微生物学を含む)	講義	2					2				○	○	
	食品衛生学実験	実験	1						3			○	○	
	調理学	講義	2		2							○	○	
	調理学実習 1	実習	1		3							○	○	
	調理学実習 2	実習	1		3							○	○	
調理科学実験	実験	1						3			○	○		
基礎栄養学	基礎栄養学	講義	2		2							○	○	
	基礎栄養学実験	実験	1			3						○	○	
応用栄養学	ライフステージ栄養学 1	講義	2			2						○	○	
	ライフステージ栄養学 2	講義	2			2						○	○	
	応用栄養学	講義	2					2					○	
	応用栄養学実習	実習	1					3				○	○	

健康栄養学科

授 業 科 目		授 業 形 態	単 位 数		週 時 間 数								履 修 コ ー ス				
			必 修	選 択	1 年		2 年		3 年		4 年						
					前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	A	B	C		
栄養教育論	健康行動科学	講義	2			2											
	栄養教育論	講義	2				2							○	○		
	栄養カウンセリング論	講義	2						2					○	○		
	栄養教育実習	実習		1				3						○	○		
臨床栄養学	臨床栄養学 1	講義	2				2							○	○		
	臨床栄養学 2	講義	2					2						○	○		
	栄養ケアマネジメント論	講義		2					2						○		
	臨床栄養管理学	講義	2							2					○		
	臨床栄養学実習	実習	1					3						○	○		
	臨床栄養管理学実習	実習		1							3				○		
公衆栄養学	公衆栄養学 1	講義	2				2							○	○		
	公衆栄養学 2	講義	2					2							○		
	公衆栄養学実習	実習		1					3						○		
給食経営管理論	給食経営管理論	講義	2					2						○	○		
	フードマーケティング論	講義	2						2						○	○	
	給食経営管理基礎実習	実習	1						3					○	○		
	給食経営管理応用実習	実習		1						3				○	○		
演習	給食経営管理計画演習	演習	1				2								○		
	健康栄養学総合演習	演習		1							2				○		
臨地実習	校外実習	実習		1						(3)				○	○		
	臨地実習	実習		3						(9)					○		
発展・応用科目	看護・医療	地域コミュニケーション論	講義	2						2							
		薬理學	講義	2							2						
		看護学概論・技術基礎演習	演習		1					2							
		栄養管理の統合と実践実習	実習		1							3					
	健康科学	分子生物学	講義	4	2							2					
		食品機能論	講義		2							2					
		食物とアレルギー	講義		2							2					
グローバルコミュニケーション	健康栄養のための英語基礎演習	演習		1			2										
	健康栄養のための英語応用演習	演習		1				2									
	国際健康栄養演習(海外研修)	演習		2				4									
連携科目	緩和ケア論	講義	2	1					1								
	災害看護論	講義		1							1						
	チーム医療連携論	講義		1							1						
	認知症看護援助論	講義		1							1						
栄養教諭	栄養教諭概論	講義		2					2						○		
	学校栄養教育論	講義		2						2					○		
総合科目	アカデミックスキルズ	講義		2						2							
	健康科学特論	演習		1							2						
卒業研究		演習		6									○	○			

- (注) 1. A欄の○は栄養士免許取得に必要な専門科目。B欄の○は管理栄養士国家試験受験資格取得に必要な専門科目。  
C欄の○は栄養教諭一種免許状取得に必要な必修科目(「Ⅳ. 免許・資格」の1. 教員免許状を参照)
2. 週時間数に( )が記してある科目は学外実習であることを示す。
3. 「臨地実習」は、「臨地実習事前事後演習」を履修していないと履修できません。
4. 「卒業研究」は、「アカデミックスキルズ」の単位を取得していないと履修できません。

## 『カリキュラムマップ』と『カリキュラムツリー』

カリキュラムマップとカリキュラムツリーは、身につけてほしい知識・能力と授業科目との対応関係を体系的にわかりやすく示したものです。

### カリキュラムマップ

ディプロマポリシー（学位授与の方針）と授業科目の関係を示したものです。

卒業時に学科のディプロマポリシーの達成目標に到達するため、授業科目と学修成果の関係を説明しています。授業科目によって育成する能力が異なるため、伸ばしたい能力など必要に応じて科目選択の参考にしてください。

### カリキュラムツリー

到達目標を達成するために、授業科目間の系統性や関連性、配当年次を示しています。

履修の際には、左側にある科目から履修することが前提となりますので、履修計画を立てる際の参考にしてください。



# 〈健康栄養学科〉カリキュラムマップ

目標のキーワード

到達目標（学修成果目標）

DP：ディプロマポリシー

①知識・技能	①DP1 食物学や栄養学を中心に幅広く学修し、管理栄養士に必要な基礎知識と応用力を身につけている。
②思考・判断・表現	②DP2 食物や栄養に関する事柄について、問題点を把握し解決するための思考力と判断力を身につけ、さまざまな対象者の意見を聞き、それに対する自分の考えや知識を正確に伝えることができる表現力がある。
③主体性・多様性・協働性	③DP3 管理栄養士養成課程での学修を基に、常に研鑽を積み、新たな問題や課題に対して積極的に取り組み、責任ある行動や言動ができる。

## 科目別目標

特に重点的に育成する能力=◎、重点的に育成する能力=○

学年	期	科目名	①	②	③
1	前期	建学のこころ		○	◎
		初年次セミナー	◎	○	
		Basic English 1	◎	○	
		総合英語A-1	◎	○	
		情報処理演習1	◎	○	
		日本語表現法1	◎	○	
		健康科学概論	◎	○	
		情報処理概論	◎	○	
		健康栄養学	◎	○	
		栄養の基礎化学演習	◎	○	
		栄養の基礎生物学演習	◎	○	
		健康栄養学基礎実験	○	◎	
		健康管理概論	◎	○	
		解剖生理学1	◎	○	
		調理学	◎	○	
		調理学実習1	◎	○	
		1・2	前期	国際事情	◎
くらしの経済	◎			○	
一般化学	◎			○	
生命のしくみ	◎			○	
初級フランス語1	◎			○	
1	後期	初級中国語1	◎	○	
		健康科学	◎	○	
		スポーツ1	◎	○	
		Basic English 2	◎	○	
		総合英語A-2	○	◎	
		情報処理演習2	◎	○	
		日本語表現法2	○	◎	
		基礎ゼミナール	○	◎	◎
		基礎化学(有機化学を含む)	◎	○	
		基礎生物学	◎	○	
口腔健康管理学	◎	○			
1	後期	公衆衛生学	○	◎	
		解剖生理学2	○	◎	
		構造生化学	○	◎	
		生化学基礎実験	○	◎	
		調理学実習2	○	◎	
		基礎栄養学	◎	○	
		健康行動科学	◎	○	
		総合女性学	◎	○	
		キャリア入門	◎	○	
		心のしくみ	◎	○	
1・2	前期	日本国憲法	◎	○	
		生活の物理	◎	○	
		地球環境と人間	◎	○	
		初級フランス語2	◎	○	
		初級中国語2	◎	○	
		スポーツ2	◎	○	

学年	期	科目名	①	②	③
2	前期	Advanced English 1	○	◎	
		総合英語B-1	○	◎	
		公衆衛生学実験	○	◎	○
		解剖生理学実験	○	◎	○
		代謝生化学	○	◎	
		食品学総論	◎	○	
		基礎栄養学実験	○	◎	○
		ライフステージ栄養学1	◎	○	
		栄養教育論	○	◎	
		臨床栄養学1	○	◎	
2・3	前期	公衆栄養学1	○	◎	
		食事管理計画演習	○	◎	
		健康栄養のための英語基礎演習	○	◎	
		哲学の方法	◎	○	
		文学の表現と鑑賞	○	◎	
		生活と地理	◎	○	
		音楽	◎	○	
		中級フランス語	○	◎	
		中級中国語	○	◎	
		2	後期	Advanced English 2	○
総合英語B-2	○			◎	
病態と治療の基礎	◎			○	
食品学各論(食品加工学を含む)	○			◎	
食品学基礎実験	◎			○	
ライフステージ栄養学2	○			◎	
栄養教育実習	○			◎	
臨床栄養学2	○			◎	
臨床栄養学実習	○			◎	
公衆栄養学2	○			◎	
2・3	後期	給食経営管理論	○	◎	
		給食経営管理基礎実習	◎	○	
		臨地実習事前事後演習		◎	○
		健康栄養のための英語応用演習	○	◎	
		国際健康栄養演習(海外研修)	○	◎	◎
		歴史に学ぶ	◎	○	
		数学の世界	◎	○	
		美術	◎	○	
		書道	◎	○	

学年	期	科目名	①	②	③
前	前期	口腔保健衛生学	○	◎	
		病態と治療(疾病論)1	○	◎	
		食品学応用実験	○	◎	
		食品衛生学(微生物学を含む)	◎	○	
		応用栄養学	○	◎	
		応用栄養学実習	○	◎	
		栄養カウンセリング論	○	◎	
		栄養ケアマネジメント論		○	◎
		公衆栄養学実習		◎	○
		フードマーケティング論	○	◎	
3	前期	給食経営管理応用実習	○	◎	
		看護学概論・技術基礎演習	◎	○	○
		緩和ケア論	○	◎	
		栄養教諭概論	◎	○	○
		基礎統計処理	◎	○	
		摂食嚥下リハビリテーション学		◎	○
		運動生理学	○	◎	◎
		病態と治療(疾病論)2		○	◎
		食品衛生学実験	○	◎	
		調理科学実験	○	◎	
後	前期	臨床栄養管理学		◎	○
		臨床栄養管理学実習	○	◎	
		地域コミュニケーション論	○	◎	
		薬理学	◎	○	
		食品機能論	○	◎	
		学校栄養教育論	○	◎	○
		アカデミックスキルズ		○	◎
		校外実習	○	○	◎
		臨地実習	○	○	◎
		前	前期	口腔健康管理学演習	○
社会福祉概論	◎			○	
生化学応用実験	○			◎	○
運動生理学実験	○			◎	
栄養管理の統合と実践実習				◎	
分子生物学	○			◎	
食物とアレルギー	○			◎	
健康科学特論				○	◎
在宅栄養管理学実習				◎	○
健康栄養学総合演習	○			○	◎
後	前期	災害看護論	○	◎	○
		チーム医療連携論	○	◎	○
		認知症看護援助論	○	◎	○
通	卒業研究	○	○	◎	

健康栄養学科

〈健康栄養学科〉カリキュラムツリー

ツリーの見方

- (1) \*印の科目はいずれかの学年で履修できる。(2) 科目名に記載の①②③は、①DP1、②DP2、③DP3を示す。
- (3) 科目名に記載されているa・b・c・dは資格必修科目を示す。必修科目の区分は、a：栄養士、b：管理栄養士、c：栄養教諭一種免許(c以外に、教育の基礎的理解に関する科目等が必要)、d：食品衛生監視員等を示す。
- (4) 科目間の→は履修順序を示す(逆方向の履修は控える)。

科目分類	1年		2年		3年		4年		到達目標	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
人間形成	③建学のこころ ①国際事情* ①一般化学* ①生命のしくみ* ①地球環境と人間*	①総合女性学* ①キャリア入門* ①日本国憲法* : c ①生活の物理* ①心のしくみ* ①哲学の方法* ①生活と地理* ①くらしの経済* ②文学の表現と鑑賞*	①国際事情* ①一般化学* ①生命のしくみ* ①地球環境と人間* ①歴史に学ぶ* ①数学の世界*	①総合女性学* ①キャリア入門* ①日本国憲法* : c ①生活の物理* ①心のしくみ* ①哲学の方法* ①生活と地理* ①くらしの経済* ②文学の表現と鑑賞*	①歴史に学ぶ* ①数学の世界*	①哲学の方法* ①生活と地理* ②文学の表現と鑑賞*	①歴史に学ぶ* ①数学の世界*	①生活と地理* ②文学の表現と鑑賞*	①書道* ①美術*	人間形成、一般教育、芸術、外国語、情報、表現、体育、健康科目から幅広い視野に立った豊かな人間性を身につける。
全学共通科目	①初年次セミナー		①音楽*	①書道* ①美術*	①音楽*	①書道* ①美術*	①音楽*	①書道* ①美術*		
外国語	①Basic English 1 : c ①総合英語 A-1 : c → ①初級フランス語 1 * → ①初級中国語 1 * →	①Basic English 2 : c ①総合英語 A-2 : c → ①初級フランス語 2 * → ①初級中国語 2 * →	②Advanced English 1 ②総合英語 B-1 → ②初級フランス語 1 * → ②中級フランス語 * ②初級中国語 1 * → ②中級中国語 *	②Advanced English 2 ②総合英語 B-2 → ②初級フランス語 2 * → ②中級フランス語 * ②初級中国語 2 * → ②中級中国語 *	②中級フランス語* ②中級中国語*	②中級フランス語* ②中級中国語*	②中級フランス語* ②中級中国語*			
情報・表現・体育・健康	①情報処理演習 1 : c ①日本語表現法 1 ①健康科学* ①スポーツ 1 * : c →	①情報処理演習 2 : c ①日本語表現法 2 ①健康科学* ①スポーツ 2 * : c →	①健康科学* ①スポーツ 1 * : c →	①健康科学* ①スポーツ 2 * : c →						
専門科目分類	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	到達目標	
基礎関連科目	①健康科学概論 → ③基礎ゼミナール ①基礎化学(有機化学含む) : d ①基礎生物学								専門科目の学修が必要となる健康科学、生物や化学、情報に関する知識と技術を身につける。	
学基礎科目	①情報処理概論 ①健康栄養学 ①栄養の基礎化学演習 ①栄養の基礎生物学演習 ②健康栄養学基礎実験									
口腔と健康	①口腔健康概論 ①口腔健康管理学								口腔と嚥下に関わる口腔機能の理解を深め、「食べること」に関する理論と援助法を修得する。	
社会・環境と健康	①健康管理概論 : bd → ②公衆衛生学 : abd →								人々の健康状態とその規定要因である社会環境の測定・評価方法を学び、健康の維持・増進や疾病予防の考え方とその取組について理解する。また、健康・医療・福祉制度や関係法類の概要についての知識を修得する。	
人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	①解剖生理学 1 : abd → ②構造生理学 : abd → ②代謝生理学 : abd →	②解剖生理学 2 : abd → ②代謝生理学 : abd → ②生化学基礎実験 : abd	②解剖生理学実験 : abd ②代謝生理学 : b	②公衆衛生学実験 : b ②解剖生理学実験 : abd ②代謝生理学 : b	②解剖生理学 : ab → ②③運動生理学 : ab → ②病態と治療(疾病論) : b	②口腔保健衛生学 → ②口腔健康管理学演習 : テーショナル学	②社会福祉概論 : ab ②運動生理学実験 : b ②生化学応用実験 : b	②口腔健康管理学演習 ①社会福祉概論 : ab	人体の様々な器官の構造と機能について、細胞や分子のレベルまで理解した上で、疾病の成り立ちを学修する。	
食べ物と健康	①調理学 : abd ①調理学実習 1 : → abd	①食品学総論 : abd → ②食品学各論(食品加工学を含む) : abd ①食品学基礎実験 : abd	②食品学総論 : abd → ②食品学各論(食品加工学を含む) : abd ①食品学基礎実験 : abd	②食品学総論 : abd → ②食品学各論(食品加工学を含む) : abd ①食品学基礎実験 : abd	②食品学総論 : abd → ②食品学各論(食品加工学を含む) : abd ①食品学基礎実験 : abd	②食品学総論 : abd → ②食品学各論(食品加工学を含む) : abd ①食品学基礎実験 : abd	②食品学総論 : abd → ②食品学各論(食品加工学を含む) : abd ①食品学基礎実験 : abd	②食品学総論 : abd → ②食品学各論(食品加工学を含む) : abd ①食品学基礎実験 : abd	生育・生産・調理・加工・保存における食品成分の変化、食べ物のおいしさや栄養、健康に及ぼす影響を理解する。また、食品の安全確保のための理論と技術を修得する。	

基礎栄養学	①基礎栄養学:abd	①基礎栄養学実験:ab	②基礎栄養学実習:ab	①ライフステージ栄養学1:abd ②ライフステージ栄養学2:abd	②応用栄養学: b ②応用栄養学実習: ab	②臨床栄養学実習: b ②臨床栄養学実習: b	②在宅栄養管理実習: b	栄養素の種類、消化・吸収、機能に関する基礎知識を修得し、健康の維持・増進における栄養の役割を理解する。
応用栄養学								日本人の食事摂取基準、各ライフステージの生理的特徴を理解し、対象に適した栄養管理のあり方を修得する。また、運動時、特殊環境、災害時などの生理的変化に基づく栄養活動とそとのマネジメント能力を修得する。
栄養教育論								対象者の健康の維持・増進、療養の回復、QOLの向上を目的に、対象(個人および集団)に応じた栄養教育計画の立案、実施と評価の方法を理解し、教育学的手法を用いた栄養教育マネジメント能力を修得する。
臨床栄養学								様々な疾病及び症状とその原因について理解を深め、対応する栄養管理法の知識と実践を学修する。
公衆栄養学								集団または個人を対象に、健康の維持・増進、疾病予防における栄養課題を科学的に明確化し、それらの解決策について学修する。給食運営とそれに関連する資源を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメント能力を修得する。
給食経営管理論								臨地実習の目的や目標を理解した上で、各種実習施設の概要、業務内容を学修し実習に備える。
総合演習① (臨地実習事前事後演習)								各種実習施設での実践活動における課題発見、解決の学びを通して、管理栄養士として必要な知識と技術を統合的に修得する。
臨地実習								管理栄養士が多職種連携でチーム医療を実施するために必要な知識と技能を養う。
発展・応用科目	看護医療							健康科学に関する最新の知識を修得し、商品開発や教育・研究分野における管理栄養士として活躍できる思考力と判断力を養う。
	健康科学							国内外の多岐にわたる健康・栄養問題を理解し、国際的な視野をもって活躍できる管理栄養士を目指す。また、英語による自己表現能力を高め、コミュニケーション能力を養う。
ケミカル								看護学の専門科目を履修することで、在宅医療や地域医療で活躍するために必要な知識や技能を身につける。
学問連携科目								栄養教育の役割と職務を理解し、児童・生徒の食に関する様々な問題を解決するために必要な知識と実践力を身につける。
栄養教諭								管理栄養士としての総合的な判断力、実践力を身につける。看護学科との合同授業により多職種連携、チーム医療についての理解を深める。
総合演習② 総合科目								研究テーマに関して、主体的に探究する能力と研究結果を公表する能力を身につける。

DP① 知識・技能

DP② 思考・判断・表現

DP③ 主体性・多様性・協働性

DPの科目別目標はカリキュラムマップを参照



## 1. 教育目的について

健康栄養学科との連携・融合のメリットを活かした高い教養、高い専門知識とともに、豊かな感性・高い倫理観を有し、多職種協働のもと“身近に寄り添い・行き届く看護”を実践できる人材の育成を目的とします。

## 2. 授業科目について

健康科学部の教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）は、学園訓である「親切」を根幹としています。したがって、教育課程では、「個々の人格を陶冶し、かつ高い教養を身に纏った力強い職能人としての女性を育成する」ことを目的としています。

看護学科においては、健康科学についての基本的な認識を土台として、看護の職務を遂行する上で必要となる専門的な知識と技術の修得のための専門科目を多く設置、女性として活きたコミュニケーション能力をもち、専門職域のリーダーとして社会貢献のできる人材を育てるための教育課程を編成しています。

### 【全学共通科目（必修6科目、選択35科目：講義18科目、演習21科目、実技2科目）】

大学での学びの導入として、初年次セミナー（全学共通科目）を1年次において履修し、学ぶための姿勢と、総合的に“人”“生活”“科学”“看護”を捉え多元的なケアを担う基礎を育て、学修の目標を見定め、専門科目の履修目的の確認やモチベーションの高揚をめざします。また、学士力育成を目指し、人間形成、一般教育、芸術、外国語、情報・表現、体育・健康などのカテゴリーに分けた全学共通科目を可能な限り選択できるよう配置しています。

### 【学部共通科目（必修2科目、選択4科目：講義5科目、演習1科目）】

理論と実践の一体的な専門教育をめざしたカリキュラムの一環として、健康栄養学科との連携のもと学部共通科目（基礎関連科目）を設置します。「健康科学概論（必修）」では、両学科の教員によるオムニバスの講義として、共通の基盤となる知識を講義するとともに、両学科が目指す医療人としての将来像を共有します。また、1年次後期に行われる基礎ゼミナール（必修科目）では、両学科の学生の相互交流をともなう少人数での課題解決型の演習を行い、両学科の学生の知識の共有と学部全体での基盤形成を行います。

### 【看護基礎科目（必修21科目、選択6科目：講義23科目、講義（演習含む）2科目、演習2科目）】

看護基礎科目群は、「健康と食」「健康と心」「健康と支援」の健康を主軸とした3領域と、「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復促進」の計5領域で構成します。専門基礎分野の知識を活用しながら、専門分野を学修する上で欠くことのできない基礎的知識と崇高なヒューマニティを形成し、医学・保健学・福祉学などの近接領域の知識や技術を身に付けることをねらいとした科目を配当しています。看護学科の特色としては、口腔機能が全身に与える影響（特に認知機能やストレス反応、脂質代謝、運動機能など）を理解し、口腔機能維持を目的とした口腔ケアを実践するための基礎的知識を習得する科目として「健康と食」の領域に「口腔健康管理学」を位置づけています。

### 【専門科目】

#### (1) 専門科目Ⅰ（基礎看護学）

（必修9科目：講義2科目、講義（演習含む）1科目、演習4科目、実習2科目）

1年次から専門科目を開講し、学年進行とともに看護学の4つのメタパラダイム概念を関連させながら単純から複雑に、かつ看護学の対象である人間の成長・発達、療養環境に応じた看護を拡大しながら学修

できるように科目を配置し、看護学の理解と技術の修得をめざしています。基礎看護学演習科目は、最新の機器類を備えた学内環境での、対象者の健康状態・生活状態を適切に把握する技術や看護実践課程の具体的展開を行い、また、LTD（Learning Through Discussion：話し合い学習法）による思考中心の学習法を取り入れ、学生の人間関係を保つ力をも育成します。

## (2) 専門科目Ⅱ

「①臨床看護学関連領域：成人看護学（急性期・慢性期）」「②発達看護学関連領域：小児看護学・母性看護学」「③地域包括ケア関連領域：老年看護学・精神看護学・在宅看護学」で編成しています。

### ① 臨床看護学関連領域

**成人看護学**（必修5科目：講義1科目、演習2科目、実習2科目）

青年期から向老期にあたる幅広い年代の『成人期を生きる人々』を対象とした看護を探求します。看護の対象には、健康な人から終末期にある人まで、あらゆる病期、あらゆる場で暮らす人が含まれます。急性・慢性看護学においては、急性的、慢性的な健康問題をもつ成人期の対象者を理解し、生涯にわたって生活習慣や生活様式の調整・再構築を必要としている人とその家族の特徴について学びます。

### ② 発達看護学関連領域

**小児看護学**（必修4科目：講義1科目、演習2科目、実習1科目）

**母性看護学**（必修4科目：講義1科目、講義（演習含む）1科目、演習1科目、実習1科目）

発達という視点から、ライフサイクル各期における母子およびその家族への援助に必要な基礎知識と技術を学ぶことを目的とし、その特徴および問題点を理解すると共に、健康を維持・増進するために必要な援助方法について学修します。

### ③ 地域包括ケア関連領域

対象の如何にかかわらず、医療機関・在宅や地域社会の様々な場において必要とされる保健・看護活動に必要な看護知識と技術を学びます。地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築を視点におき、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を学修します。

**老年看護学**（必修4科目：講義1科目、演習2科目、実習1科目）においては、老年期における身体的特徴、社会的背景および価値観などを全人的に理解します。また、老いを生きるとはどのようなことなのか、健やかに老い、その人らしい暮らしへの看護について学修します。さらに、老年者への福祉対策の動向とその課題を通して、在宅・施設におけるケアと家族介護者への支援について学修します。

**精神看護学**（必修4科目：講義1科目、演習2科目、実習1科目）では、精神疾患や精神障がいを持ちながら病院・地域で生活する人々の全体像を理解し、個別性を重視した効果的な看護を提供するための実際を学びます。対象者と関係を築きながら、対象者となる人のその苦悩や生活のしづらさなどを深く理解し、精神看護が対象者との信頼関係や相互作用を基盤に進んでいくことをふまえながら、セルフケア能力の維持・向上を目指して看護を展開します。

**在宅看護学**（必修4科目：講義1科目、演習2科目、実習1科目）では、在宅看護の歴史や社会的背景、法制度を理解したうえで、在宅看護の目的や療養者やその家族の特徴を理解するための基礎的な知識を学びます。在宅で過ごす療養者が疾病を抱えながらも、その人らしい生き方を続けていくために、求められている看護の役割について学修します。

### (3) 専門科目Ⅲ

#### ①看護の統合と実践（必修10科目、選択2科目：講義10科目、演習1科目、実習1科目）

専門性が高く、個々の医療に対し臨機応変に自身で対応・解決しなければならない能力を育むために、「認知症看護援助論」「緩和ケア論」「医療安全」「災害看護論」「国際看護論」「看護管理」を必修科目として履修します。健康栄養学科と看護学科の合同科目である「健康科学特論」においては、両学科でタイアップして、いわゆるヘルスサイエンスを探究します。また、看護を実践する際に浮上する問題点を多方面からアプローチし、方法論のゴールを見出すことができる能力を養う科目として「看護学研究方法論」「看護学研究ゼミナール(卒論)」を配置します。さらに、医療をチームとして捉えた際の看護師の役割を学修する「チーム医療連携論」、家族で支え合える医療の在り方を学修する「家族看護論」の2科目は、将来を見据えた学問として、選択科目に掲げています。

#### ②学科間連携科目（選択4科目中2科目履修：講義3科目、実習1科目）

健康栄養学科との連携を活かして、看護の領域においてその修得が強みとなるように、ライフステージ別の栄養ケア、マネジメントと、臨床における栄養管理法について健康栄養学科の教員による講義・実習を配置します。これらの講義・実習を通じて、乳児の離乳食から高齢者の嚥下食に至る、望ましい食のあり方と、疾患別治療食の知識の理解を深めます。

#### 看護学科 学科間連携科目一覧

学 科	授業科目	授業形態	単位数
健康栄養学科	臨床栄養学 1	講義	1 単位
	ライフステージ栄養学 1	講義	1 単位
	ライフステージ栄養学 2	講義	1 単位
	応用栄養学実習	実習	1 単位

#### ③公衆衛生看護学（選択7科目：講義3科目、演習2科目、実習2科目）

公衆衛生看護学は、保健師の活動ならびに公衆衛生活動を理解する科目として「公衆衛生看護学概論」「公衆衛生看護管理論」「公衆衛生看護活動展開論」「公衆衛生援助論Ⅰ」「公衆衛生援助論Ⅱ」「公衆衛生看護実習Ⅰ」「公衆衛生看護実習Ⅱ」の科目を設定します。

公衆衛生看護学では、地域で生活する様々な健康レベル、発達段階にある人々が、自らの健康課題・問題を捉え、主体的に解決し、生活者として行動できるように援助していく視点を養います。地域で生活する人々を対象として展開される公衆衛生看護活動に必要な基礎的知識を習得します。対象の特性別に根拠となる動向、法・制度、社会資源、健康課題の解決方法などを理解し、特に、現代社会における主要な健康課題・問題について住民を対象とした地域づくりを目指した支援方法を具体的に考え、理解を深めます。

### 3. 3年次への進級要件について

2年次後期までに配当された必修科目の単位がすべて修得できない場合は、3年次への進級を「不可」とし、2年次に原級留め置きとします。

## 『カリキュラムマップ』と『カリキュラムツリー』

カリキュラムマップとカリキュラムツリーは、身につけてほしい知識・能力と授業科目との対応関係を体系的にわかりやすく示したものです。

### カリキュラムマップ

ディプロマポリシー（学位授与の方針）と授業科目の関係を示したものです。

卒業時に学科のディプロマポリシーの達成目標に到達するため、授業科目と学修成果の関係を説明しています。授業科目によって育成する能力が異なるため、伸ばしたい能力など必要に応じて科目選択の参考にしてください。

### カリキュラムツリー

到達目標を達成するために、授業科目間の系統性や関連性、配当年次を示しています。

履修の際には、左側にある科目から履修することが前提となりますので、履修計画を立てる際の参考にしてください。

4. 教育課程について

看護学科 専門科目

授業科目	授業形態	単位数		週 時 間 数								履修コース			
		必 修	選 択	1年		2年		3年		4年		看護師	保健師		
				前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期				
(学部共通科目) 基礎関連科目	健康科学概論	講義	2		2								○	○	
	基礎ゼミナール	演習	1			2							○	○	
	基礎化学(有機化学を含む)	講義		2		2							△	△	
	基礎生物学	講義		2		2							△	△	
	情報処理概論	講義		2	2								△	△	
	基礎統計処理	講義		2		2							△	○	
看護 基礎 科目	健康と食	口腔健康管理学	講義	2		2							○	○	
		栄養学(生化学を含む)	講義	2			2						○	○	
		食と健康	講義	2			2						○	○	
		栄養指導論	演習	1				2					○	○	
	健康と心	人間関係論	講義	2		2							○	○	
		コミュニケーション論	講義	2		2							○	○	
		臨床心理学	講義	2			2						○	○	
		カウンセリング技術	演習	1			2						○	○	
	健康と支援	生活と環境	講義		2	2							△	△	
		医療関係法	講義	1			1						○	○	
		女性の健康科学	講義	1			1						○	○	
		社会福祉	講義	2				2					○	○	
公衆衛生学		講義	2				2					○	○		
保健統計学		講義		2			2					△	○		
疫学		講義		2				2				△	○		
社会と個人		講義		2			2					△	△		
人体の構造と機能	人体構造・人体機能学Ⅰ	講義	2		2	2						○	○	演習含む	
	人体構造・人体機能学Ⅱ	講義	2		2	2						○	○	演習含む	
疾病の成り立ちと回復促進	病理/感染症学	講義	2		2							○	○		
	臨床薬理学	講義	2		2							○	○		
	病態と治療(疾病論)Ⅰ 循環・呼吸・消化	講義	2			2						○	○		
	病態と治療(疾病論)Ⅱ 腎・泌尿器・内分泌・代謝・造血	講義	2			2						○	○		
	病態と治療(疾病論)Ⅲ 脳神経・運動・リハ・放射	講義	2			2						○	○		
	病態と治療(疾病論)Ⅳ 産婦・小児・精神	講義	2			2						○	○		
専門科目Ⅰ 基礎看護学	看護学概論	講義	2		2							○	○		
	看護倫理・生命倫理	講義	2		2							○	○		
	フィジカルアセスメント(看護生理学を含む)	演習	1		2							○	○		
	看護過程	講義	2			2						○	○	演習含む	
	基礎看護技術演習Ⅰ	演習	1		2							○	○		
	基礎看護技術演習Ⅱ	演習	2			4						○	○		
	日常生活援助技術	演習	2			4						○	○		
	基礎看護技術演習Ⅲ 診療援助技術	演習	1			2						○	○		
	基礎看護学実習Ⅰ	実習	1		○							○	○		
基礎看護学実習Ⅱ	実習	2					○				○	○			

看護学科



	授業科目		授業形態	単位数		週 時 間 数								履修コース		
				必 修	選 択	1年		2年		3年		4年		看護師	保健師	
						前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期			
専 門 科 目	臨床看護学関連領域	成人看護学	成人看護学概論	講義	2			2						○	○	
			成人看護援助論Ⅰ(慢性期)	演習	2			2	2					○	○	
			成人看護援助論Ⅱ(急性期)	演習	2				4					○	○	
			成人看護学実習Ⅰ(慢性期)	実習	3						○			○	○	
			成人看護学実習Ⅱ(急性期)	実習	3						○			○	○	
	発達看護学関連領域	小児看護学	小児看護学概論	講義	2				2					○	○	
			小児看護援助論Ⅰ	演習	1				2					○	○	
			小児看護援助論Ⅱ	演習	1					2				○	○	
			小児看護学実習	実習	2						○			○	○	
		母性看護学	母性看護学概論	講義	2				2					○	○	
			母性看護援助論Ⅰ	講義	1				2					○	○	演習含む
		母性看護援助論Ⅱ	演習	1					2				○	○		
		母性看護学実習	実習	2							○		○	○		
	地域包括ケア関連領域	老年看護学	老年看護学概論	講義	2			2						○	○	
			老年看護援助論Ⅰ	演習	1				2					○	○	
老年看護援助論Ⅱ			演習	1					2				○	○		
老年看護学実習			実習	4						○			○	○		
精神看護学		精神看護学概論	講義	2				2					○	○		
		精神看護援助論Ⅰ	演習	1				2					○	○		
		精神看護援助論Ⅱ	演習	1					2				○	○		
		精神看護学実習	実習	2						○			○	○		
在宅看護学		在宅看護学概論	講義	2				2					○	○		
		在宅看護援助論Ⅰ	演習	1					2				○	○		
	在宅看護援助論Ⅱ	演習	1					2				○	○			
	在宅看護学実習	実習	2							○		○	○			
専 門 科 目	看護の統合と実践	看護管理	講義	1					1				○	○		
		医療安全	講義	1					1				○	○		
		緩和ケア論	講義	1					1				○	○		
		災害看護論	講義	1							1		○	○		
		国際看護論	講義	1								1	○	○		
		認知症看護援助論	講義	1								1	○	○		
		家族看護論	講義		1							1	△	△		
		チーム医療連携論	講義		1							1	△	△		
		看護学研究方法論	講義	1						1			○	○		
		看護学研究ゼミナール(卒論)	演習	2							2	2	○	○		
		健康科学特論	講義	2							2		○	○		
		看護の統合と実践実習	実習	2								○	○	○		
目	連携科目	学 科 間	臨床栄養学Ⅰ	講義	1			1				1	☆	☆	2単位以上 選択必修	
			ライフステージ栄養学Ⅰ	講義	1			1			1	☆	☆			
			ライフステージ栄養学Ⅱ	講義	1			1			1	☆	☆			
			応用栄養学実習	実習	1				3			☆	☆			
	Ⅲ	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	講義	2				2					○	○	
			公衆衛生看護管理論	講義	2				2					○	○	
			公衆衛生看護活動展開論	講義	2				2					○	○	
	公衆衛生援助論Ⅰ	演習	2				4					○	○			
	公衆衛生援助論Ⅱ	演習	2					4				○	○			
	公衆衛生看護実習Ⅰ	実習	3							○		○	○			
	公衆衛生看護実習Ⅱ	実習	2							○		○	○			

- (注) 1. 履修コース欄の○は「看護師国家試験受験資格」「保健師国家試験受験資格(養護教諭二種免許状に必要な科目を含む)」それぞれの取得に必要な必修科目。△印は選択科目。☆印は選択必修科目。  
 2. 2年次後期までに配当された必修科目の単位がすべて修得できない場合は、3年次への進級を「不可」とし、2年次に原級留め置きとする。

## 〈看護学科〉カリキュラムマップ

## 到達目標（学修成果目標）

## 目標のキーワード

①DP1	豊かな人間性を持ち、医療専門職者に必要とされる「人間および生命の尊厳」に対し真摯に向き合うことができること。	知識・技能 思考・判断・表現
②DP2	専門分野における知識・技術・態度を備え、科学的思考力のもと効果的に看護を実践するための問題解決に向けての方略を選択し、よりの確かな看護実践ができること。	知識・技能
③DP3	保健・医療・福祉・看護に関する総合的な視野をもち、専門的知識や技術を獲得するために能動的に自己啓発を続け、専門職への意識向上に繋げることができること。	主体性・多様性・協働性
④DP4	自己理解を深め、基本的なコミュニケーション・スキルを獲得し、他者の主張を尊重する人間関係を構築することができること、医療チームの中で多職種と有効かつ協力的にコミュニケーションをとる、専門職として責任ある行動がとれること。	思考・判断・表現
⑤DP5	地域的・国際的動向に関心をもち、医療・保健・福祉の課題と看護職者の役割を展望することができること。	主体性・多様性・協働性

	① DP1	② DP2	③ DP3	④ DP4	⑤ DP5	
1 学 年	建学のこころ 総合女性学 キャリア入門 初年次セミナー 国際事情 日本国憲法 生活と地理 生活の物理 地球環境と人間 一般化学 生命のしくみ ぐらしの経済 基礎化学 基礎生物学 情報処理概論 情報処理演習1 情報処理演習2 基礎統計処理 看護倫理・生命倫理 健康科学 スポーツ1 スポーツ2	健康科学概論 口腔健康管理学 栄養学(生化学含む) 生活と環境 女性の健康科学 臨床薬理学 病理/感染症学 フィジカルアセスメント 看護学概論 看護学概論演習1 基礎看護技術演習II 基礎看護学実習1	基礎セミナー 医療関係法 人体構造・人体機能学I 人体構造・人体機能学II	日本語表現法1 日本語表現法2 心のしくみ Basic English 1 Basic English 2 総合英語A-1 総合英語A-2 初級フランス語1 初級フランス語2 初級中国語1 初級中国語2 人間関係論 コミュニケーション論		
2 学 年	哲学の方法 文学の表現と鑑賞 歴史に学ぶ 数学の世界 音楽 美術 書道 社会と個人	病態と治療(疾病論)I 病態と治療(疾病論)II 病態と治療(疾病論)III 病態と治療(疾病論)IV 看護過程 基礎看護技術演習III 基礎看護学実習II 成人看護学概論 成人看護学実習I 成人看護学実習II 小児看護学概論 小児看護学実習I 母性看護学概論 母性看護学実習I 老年看護学概論 老年看護学実習I 精神看護学概論 精神看護学実習I 在宅看護学概論 食と健康 臨床栄養学I ライフステージ栄養学1 ライフステージ栄養学2	看護管理 医療安全 看護学研究方法論	Advanced English 1 Advanced English 2 総合英語B-1 総合英語B-2 中級フランス語 中級中国語 臨床心理学 カウンセリング技術	社会学 公衆衛生学 保健統計学	
3 学 年	栄養指導論	健康管理学 成人看護学実習I 成人看護学実習II 小児看護学実習II 小児看護学実習 母性看護学実習II 母性看護学実習 老年看護学実習II 老年看護学実習 精神看護学実習II 精神看護学実習 在宅看護学実習I 在宅看護学実習II 緩和ケア論 応用栄養学実習 公衆衛生学実習I		成人看護学実習I 成人看護学実習II 老年看護学実習 小児看護学実習 精神看護学実習 母性看護学実習	疫学 保健医療福祉行政論 公衆衛生看護学概論 公衆衛生看護学活動展開論 公衆衛生看護学管理論	
4 学 年		母性看護学実習 在宅看護学実習 家族看護論 認知症看護学実習 臨床栄養学1 ライフステージ栄養学1 ライフステージ栄養学2 看護の統合と実践実習 公衆衛生学実習II	看護学研究ゼミナール 看護学実習	チーム医療連携論 在宅看護学実習 災害看護論 看護の統合と実践実習	看護の統合と実践実習 健康科学特論 国際看護論 公衆衛生看護学実習I 公衆衛生看護学実習II	

科目別目標

特に重点的に育成する能力=◎、重点的に育成する能力=○

学年	学期	科目名	DP	①	②	③	④	⑤	
1	前期	建学のころ	◎	◎					
		初年次セミナー	◎	◎	○				
		Basic English 1	◎	◎		◎			
		総合英語A-1	◎	◎		◎			
		情報処理演習1	◎	◎		◎			
		日本語表現法1	◎	◎		◎			
		健康科学概論	◎	◎		◎			
		情報処理解論	◎	◎		◎			
		口腔健康管理学	◎	◎		◎			
		人間関係論	◎	◎		◎			
		コミュニケーション論	◎	◎		◎			
		生活と環境	◎	◎		◎			
		看護学概論	◎	◎		◎			
		基礎看護技術演習Ⅰ(基礎看護技術)	◎	◎		◎			
1(2)	前期	基礎看護学実習Ⅰ	◎	◎		◎			
		初級フランス語1	◎	◎		◎			
		初級中国語1	◎	◎		◎			
		健康科学	◎	◎		◎			
		スポーツ1	◎	◎		◎			
		国際事情	◎	◎		◎			
		くらしの経済	◎	◎		◎			
		生活と地理	◎	◎		◎			
		一般化学(有機化学を含む)	◎	◎		◎			
		生命のしくみ	◎	◎		◎			
		Basic English 2	◎	◎		◎			
		総合英語A-2	◎	◎		◎			
		情報処理演習2	◎	◎		◎			
		日本語表現法2	◎	◎		◎			
1(2,3)	前期	基礎統計処理	◎	◎		◎			
		基礎ゼミナール	◎	◎		◎			
		基礎化学(有機化学を含む)	◎	◎		◎			
		基礎生物学	◎	◎		◎			
		医療関係法	◎	◎		◎			
		病理/感染症学	◎	◎		◎			
		臨床薬理学	◎	◎		◎			
		栄養学(生化学を含む)	◎	◎		◎			
		女性の健康科学	◎	◎		◎			
		看護倫理・生命倫理	◎	◎		◎			
		フイジカルアセスメント(看護生理合)	◎	◎		◎			
		基礎看護技術演習Ⅱ(日常生活援助技術)	◎	◎		◎			
		キャリア入門	◎	◎		◎			
		初級フランス語2	◎	◎		◎			
1(2,4)	前期	初級中国語2	◎	◎		◎			
		スポーツ2	◎	◎		◎			
		総合女性学	◎	◎		◎			
		心のしくみ	◎	◎		◎			
		日本国憲法	◎	◎		◎			
		生活の物理	◎	◎		◎			
		地球環境と人間	◎	◎		◎			
		人体構造・人体機能学Ⅰ	◎	◎		◎			
		人体構造・人体機能学Ⅱ	◎	◎		◎			
		1	通年	基礎看護学実習Ⅱ	◎	◎		◎	
				初級中国語1	◎	◎		◎	
				基礎看護学実習Ⅲ(診療援助技術)	◎	◎		◎	
				成人看護学概論	◎	◎		◎	
				老年看護学概論	◎	◎		◎	
哲学の方法	◎			◎		◎			
文学の表現と鑑賞	◎			◎		◎			
音楽	◎			◎		◎			
中級フランス語	◎			◎		◎			
中級中国語	◎			◎		◎			
Advanced English 2	◎			◎		◎			
総合英語B-2	◎			◎		◎			
社会と個人	◎			◎		◎			
基礎看護学実習Ⅱ	◎			◎		◎			
成人看護援助論Ⅱ(急性期)	◎	◎		◎					
老年看護援助論Ⅰ	◎	◎		◎					
小児看護学概論	◎	◎		◎					
小児看護援助論Ⅰ	◎	◎		◎					
小児看護学概論	◎	◎		◎					
小児看護援助論Ⅱ	◎	◎		◎					
母性看護学概論	◎	◎		◎					
母性看護援助論Ⅰ	◎	◎		◎					
母性看護学概論	◎	◎		◎					
母性看護援助論Ⅱ	◎	◎		◎					
在宅看護学概論	◎	◎		◎					
臨床栄養学Ⅰ	◎	◎		◎					
ライフステージ栄養学Ⅰ	◎	◎		◎					
ライフステージ栄養学Ⅱ	◎	◎		◎					
歴史に学ぶ	◎	◎		◎					
数学の世界	◎	◎		◎					
美術	◎	◎		◎					
書道	◎	◎		◎					
成人看護援助論Ⅰ(慢性期)	◎	◎		◎					

学年	学期	科目名	DP	①	②	③	④	⑤
2	前期	Advanced English 1	◎	◎				
		総合英語B-1	◎	◎		◎		
		食と健康	◎	◎		◎		
		臨床心理学	◎	◎		◎		
		カウンセリング技術	◎	◎		◎		
		社会福祉	◎	◎		◎		
		公衆衛生学	◎	◎		◎		
		保健統計学	◎	◎		◎		
		病態と治療(疾病論)Ⅰ(循環・呼吸・消化器)	◎	◎		◎		
		病態と治療(疾病論)Ⅱ(腎泌尿器・内分泌代謝・造血)	◎	◎		◎		
		病態と治療(疾病論)Ⅲ(脳神経・運動・内分泌)	◎	◎		◎		
		病態と治療(疾病論)Ⅳ(産婦・小児・精神)	◎	◎		◎		
		看護過程	◎	◎		◎		
		基礎看護技術演習Ⅲ(診療援助技術)	◎	◎		◎		
成人看護学概論	◎	◎		◎				
老年看護学概論	◎	◎		◎				
哲学の方法	◎	◎		◎				
文学の表現と鑑賞	◎	◎		◎				
音楽	◎	◎		◎				
中級フランス語	◎	◎		◎				
中級中国語	◎	◎		◎				
Advanced English 2	◎	◎		◎				
総合英語B-2	◎	◎		◎				
社会と個人	◎	◎		◎				
基礎看護学実習Ⅱ	◎	◎		◎				
成人看護援助論Ⅱ(急性期)	◎	◎		◎				
老年看護援助論Ⅰ	◎	◎		◎				
小児看護学概論	◎	◎		◎				
小児看護援助論Ⅰ	◎	◎		◎				
小児看護学概論	◎	◎		◎				
小児看護援助論Ⅱ	◎	◎		◎				
母性看護学概論	◎	◎		◎				
母性看護援助論Ⅰ	◎	◎		◎				
母性看護学概論	◎	◎		◎				
母性看護援助論Ⅱ	◎	◎		◎				
在宅看護学概論	◎	◎		◎				
臨床栄養学Ⅰ	◎	◎		◎				
ライフステージ栄養学Ⅰ	◎	◎		◎				
ライフステージ栄養学Ⅱ	◎	◎		◎				
歴史に学ぶ	◎	◎		◎				
数学の世界	◎	◎		◎				
美術	◎	◎		◎				
書道	◎	◎		◎				
成人看護援助論Ⅰ(慢性期)	◎	◎		◎				

学年	学期	科目名	DP	①	②	③	④	⑤
3	前期	栄養指導論	◎	◎				
		疲学	◎	◎				
		保健医療福祉行政論	◎	◎				
		保健行動論	◎	◎				
		健康管理学	◎	◎				
		老年看護援助論Ⅱ	◎	◎				
		小児看護援助論Ⅱ	◎	◎				
		母性看護援助論Ⅱ	◎	◎				
		精神看護援助論Ⅱ	◎	◎				
		在宅看護援助論Ⅰ	◎	◎				
		在宅看護援助論Ⅱ	◎	◎				
		看護管理	◎	◎				
		医療安全	◎	◎				
		緩和ケア論	◎	◎				
看護学研究方法論	◎	◎						
応用栄養学実習	◎	◎						
公衆衛生看護学概論	◎	◎						
公衆衛生看護管理論	◎	◎						
公衆衛生看護活動展開論	◎	◎						
公衆衛生援助論Ⅰ	◎	◎						
成人看護学実習Ⅰ(慢性期)	◎	◎						
成人看護学実習Ⅱ(急性期)	◎	◎						
老年看護学実習	◎	◎						
小児看護学実習	◎	◎						
精神看護学実習	◎	◎						
母性看護学実習	◎	◎						
3) 前期	母性看護学実習	◎	◎					
4) 後期	母性看護学実習	◎	◎					

学年	学期	科目名	DP	①	②	③	④	⑤
4	後期	在宅看護学実習	◎	◎				
		健康科学特論	◎	◎				
		看護の統合と実践実習	◎	◎				
		公衆衛生援助論Ⅱ	◎	◎				
		災害看護論	◎	◎				
		国際看護論	◎	◎				
		認知症看護援助論	◎	◎				
		家族看護論	◎	◎				
		チーム医療連携論	◎	◎				
		看護学研究ゼミナール(卒論)	◎	◎				
		公衆衛生看護実習Ⅰ	◎	◎				
		公衆衛生看護実習Ⅱ	◎	◎				
		通年	公衆衛生看護実習Ⅱ	◎	◎			



<看護学科>カリキュラムツリー

ツリーの見方

- (1) \*印の科目はいずれかの学年で履修できる。
- (2) 科目名に記載の①②③④⑤⑥は、①：DP1、②：DP2、③：DP3、④：DP4、⑤：DP5を示す。
- (3) 科目名に記載されているa・b・cは資格関連必修科目を示す。必修科目の区分は、a：看護師国家試験・第一種衛生管理者免許（a区分の科目も必修）、b：保健師国家試験、c：養護教諭二種免許を示す（a・b区分の科目も必修）。
- (4) 科目間の→は履修順位を示す。

科目分類	1年		2年		3年		4年		到達目標
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
人間形成	①建学のこころ：a ①④キャリア入門*	①総合女性学* ①④キャリア入門*	①総合女性学* ①④キャリア入門*	①総合女性学* ①④キャリア入門*	①哲学の方法* ①文学の表現と鑑賞* ①⑤国際事情* ①⑤くらしの経済* ①生活と地理* ①一般化学(有機化学含む)* ①②生命のしくみ*	①総合女性学* ①④キャリア入門*	①④心 <small>の</small> しくみ* ①文学の表現と鑑賞* ①⑤国際事情* ①⑤くらしの経済* ①生活と地理* ①一般化学* ①②生命のしくみ*	①④心 <small>の</small> しくみ* ①歴史に学ぶ* ①日本国憲法* ①数学の世界* ①生活の物理* ①地球環境と人間*	人間形成、一般教育、芸術、外国語、情報、表現、体育、健康科目から、幅広い視野に立った豊かな人間性を身に付けている。
	①③初年次セミナー：a ④④心 <small>の</small> しくみ* ①⑤国際事情* ①⑤くらしの経済* ①生活と地理* ①地球環境と人間* ①一般化学(有機化学含む)* ①②生命のしくみ*	①日本国憲法*：bc ①生活の物理* ①地球環境と人間* ①一般化学(有機化学含む)* ①②生命のしくみ*	①哲学の方法* ①文学の表現と鑑賞* ①⑤国際事情* ①⑤くらしの経済* ①生活と地理* ①一般化学(有機化学含む)* ①②生命のしくみ*	①総合女性学* ①④キャリア入門*	①美術* ①書道*	①美術* ①書道*	①美術* ①書道*	①美術* ①書道*	①美術* ①書道*
全学共通科目	④①Basic English 1：a ④①総合英語A-1：a ④①初級フランス語1* ④①初級中国語1* ④①情報処理演習1：c ④①日本語表現法1 ①②健康科学*：b ①スポーツ1*：c	④①Basic English 2：a ④①総合英語A-2：a ④①初級フランス語2* ④①初級中国語2* ④①情報処理演習2：c ④①日本語表現法2 ①②健康科学*：b ①スポーツ2*：c	④①Advanced English 1 ④①総合英語B-1 ④①初級フランス語1* ④①中級フランス語* ④①初級中国語1* ④①中級中国語*	④①Advanced English 2 ④①総合英語B-2 ④①初級フランス語2* ④①中級フランス語* ④①初級中国語2* ④①中級中国語*	①美術* ①書道*	①美術* ①書道*	①美術* ①書道*	①美術* ①書道*	①美術* ①書道*
	④①Basic English 1：a ④①総合英語A-1：a ④①初級フランス語1* ④①初級中国語1* ④①情報処理演習1：c ④①日本語表現法1 ①②健康科学*：b ①スポーツ1*：c	④①Basic English 2：a ④①総合英語A-2：a ④①初級フランス語2* ④①初級中国語2* ④①情報処理演習2：c ④①日本語表現法2 ①②健康科学*：b ①スポーツ2*：c	④①Advanced English 1 ④①総合英語B-1 ④①初級フランス語1* ④①中級フランス語* ④①初級中国語1* ④①中級中国語*	④①Advanced English 2 ④①総合英語B-2 ④①初級フランス語2* ④①中級フランス語* ④①初級中国語2* ④①中級中国語*	①美術* ①書道*	①美術* ①書道*	①美術* ①書道*	①美術* ①書道*	①美術* ①書道*
学部共通	②①健康科学概論：a ①⑤情報処理概論 ③①基礎ゼミナール：a ①②基礎統計処理：bc	②①健康科学(有機化学含む) ①基礎生物学 ③①基礎ゼミナール：a ①②基礎統計処理：bc	②①健康科学*：b ①スポーツ1*：c	②①健康科学*：b ①スポーツ2*：c	①美術* ①書道*	①美術* ①書道*	①美術* ①書道*	①美術* ①書道*	①美術* ①書道*
	②①健康科学概論：a ①⑤情報処理概論 ③①基礎ゼミナール：a ①②基礎統計処理：bc	②①健康科学(有機化学含む) ①基礎生物学 ③①基礎ゼミナール：a ①②基礎統計処理：bc	②①健康科学*：b ①スポーツ1*：c	②①健康科学*：b ①スポーツ2*：c	①美術* ①書道*	①美術* ①書道*	①美術* ①書道*	①美術* ①書道*	①美術* ①書道*
健康と食生活の健康づくり	②⑤口腔健康管理学：a ④①人間関係論：a ④①コミュニケーション論：a ②①⑤生活と環境	②①栄養学(生化学含む)：a ④①②臨床心理学：a ④①②カウンセリング技術：a ⑤社会福祉：a ⑤公衆衛生学：a ⑤保健統計学：b	②①食と健康：a ④①②臨床心理学：a ④①②カウンセリング技術：a	②①食と健康：a ④①②臨床心理学：a ④①②カウンセリング技術：a	①②健康科学*：b ①スポーツ1*：c	①②健康科学*：b ①スポーツ2*：c	①②健康科学*：b ①スポーツ1*：c	①②健康科学*：b ①スポーツ2*：c	①②健康科学*：b ①スポーツ2*：c
	②⑤口腔健康管理学：a ④①人間関係論：a ④①コミュニケーション論：a ②①⑤生活と環境	②①栄養学(生化学含む)：a ④①②臨床心理学：a ④①②カウンセリング技術：a ⑤社会福祉：a ⑤公衆衛生学：a ⑤保健統計学：b	②①食と健康：a ④①②臨床心理学：a ④①②カウンセリング技術：a	②①食と健康：a ④①②臨床心理学：a ④①②カウンセリング技術：a	①②健康科学*：b ①スポーツ1*：c	①②健康科学*：b ①スポーツ2*：c	①②健康科学*：b ①スポーツ2*：c	①②健康科学*：b ①スポーツ2*：c	①②健康科学*：b ①スポーツ2*：c
看護基礎	③①④人体構造・人体機能学 I：a ③①④人体構造・人体機能学 II：a ②①病理・感染学：a ②①臨床薬理学：a	③①④人体構造・人体機能学 I：a ③①④人体構造・人体機能学 II：a ②①病理・感染学：a ②①臨床薬理学：a	②①⑤食と健康：a ④①②臨床心理学：a ④①②カウンセリング技術：a ⑤社会福祉：a ⑤公衆衛生学：a ⑤保健統計学：b	②①⑤食と健康：a ④①②臨床心理学：a ④①②カウンセリング技術：a ⑤社会福祉：a ⑤公衆衛生学：a ⑤保健統計学：b	①②健康科学*：b ①スポーツ1*：c	①②健康科学*：b ①スポーツ2*：c	①②健康科学*：b ①スポーツ2*：c	①②健康科学*：b ①スポーツ2*：c	①②健康科学*：b ①スポーツ2*：c
	③①④人体構造・人体機能学 I：a ③①④人体構造・人体機能学 II：a ②①病理・感染学：a ②①臨床薬理学：a	③①④人体構造・人体機能学 I：a ③①④人体構造・人体機能学 II：a ②①病理・感染学：a ②①臨床薬理学：a	②①⑤食と健康：a ④①②臨床心理学：a ④①②カウンセリング技術：a ⑤社会福祉：a ⑤公衆衛生学：a ⑤保健統計学：b	②①⑤食と健康：a ④①②臨床心理学：a ④①②カウンセリング技術：a ⑤社会福祉：a ⑤公衆衛生学：a ⑤保健統計学：b	①②健康科学*：b ①スポーツ1*：c	①②健康科学*：b ①スポーツ2*：c	①②健康科学*：b ①スポーツ2*：c	①②健康科学*：b ①スポーツ2*：c	①②健康科学*：b ①スポーツ2*：c
関連科目	③①④人体構造・人体機能学 I：a ③①④人体構造・人体機能学 II：a ②①病理・感染学：a ②①臨床薬理学：a	③①④人体構造・人体機能学 I：a ③①④人体構造・人体機能学 II：a ②①病理・感染学：a ②①臨床薬理学：a	②①⑤食と健康：a ④①②臨床心理学：a ④①②カウンセリング技術：a ⑤社会福祉：a ⑤公衆衛生学：a ⑤保健統計学：b	②①⑤食と健康：a ④①②臨床心理学：a ④①②カウンセリング技術：a ⑤社会福祉：a ⑤公衆衛生学：a ⑤保健統計学：b	①②健康科学*：b ①スポーツ1*：c	①②健康科学*：b ①スポーツ2*：c	①②健康科学*：b ①スポーツ2*：c	①②健康科学*：b ①スポーツ2*：c	①②健康科学*：b ①スポーツ2*：c
	③①④人体構造・人体機能学 I：a ③①④人体構造・人体機能学 II：a ②①病理・感染学：a ②①臨床薬理学：a	③①④人体構造・人体機能学 I：a ③①④人体構造・人体機能学 II：a ②①病理・感染学：a ②①臨床薬理学：a	②①⑤食と健康：a ④①②臨床心理学：a ④①②カウンセリング技術：a ⑤社会福祉：a ⑤公衆衛生学：a ⑤保健統計学：b	②①⑤食と健康：a ④①②臨床心理学：a ④①②カウンセリング技術：a ⑤社会福祉：a ⑤公衆衛生学：a ⑤保健統計学：b	①②健康科学*：b ①スポーツ1*：c	①②健康科学*：b ①スポーツ2*：c	①②健康科学*：b ①スポーツ2*：c	①②健康科学*：b ①スポーツ2*：c	①②健康科学*：b ①スポーツ2*：c
科目	③①④人体構造・人体機能学 I：a ③①④人体構造・人体機能学 II：a ②①病理・感染学：a ②①臨床薬理学：a	③①④人体構造・人体機能学 I：a ③①④人体構造・人体機能学 II：a ②①病理・感染学：a ②①臨床薬理学：a	②①⑤食と健康：a ④①②臨床心理学：a ④①②カウンセリング技術：a ⑤社会福祉：a ⑤公衆衛生学：a ⑤保健統計学：b	②①⑤食と健康：a ④①②臨床心理学：a ④①②カウンセリング技術：a ⑤社会福祉：a ⑤公衆衛生学：a ⑤保健統計学：b	①②健康科学*：b ①スポーツ1*：c	①②健康科学*：b ①スポーツ2*：c	①②健康科学*：b ①スポーツ2*：c	①②健康科学*：b ①スポーツ2*：c	①②健康科学*：b ①スポーツ2*：c
	③①④人体構造・人体機能学 I：a ③①④人体構造・人体機能学 II：a ②①病理・感染学：a ②①臨床薬理学：a	③①④人体構造・人体機能学 I：a ③①④人体構造・人体機能学 II：a ②①病理・感染学：a ②①臨床薬理学：a	②①⑤食と健康：a ④①②臨床心理学：a ④①②カウンセリング技術：a ⑤社会福祉：a ⑤公衆衛生学：a ⑤保健統計学：b	②①⑤食と健康：a ④①②臨床心理学：a ④①②カウンセリング技術：a ⑤社会福祉：a ⑤公衆衛生学：a ⑤保健統計学：b	①②健康科学*：b ①スポーツ1*：c	①②健康科学*：b ①スポーツ2*：c	①②健康科学*：b ①スポーツ2*：c	①②健康科学*：b ①スポーツ2*：c	①②健康科学*：b ①スポーツ2*：c





教育の基礎的理解に関する科目等

授 業 科 目		授 業 形 態	単 位 数		週 時 間 数								備 考	
					1 年		2 年		3 年		4 年			
			必 修	選 択	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期		
A	教 育 原 理	講義		2	2									
	教 育 史	講義		2		2								
	教 師 論	講義		2				2						
	教 育 制 度 論	講義		2			2							
	教 育 心 理 学	講義		2			2							
	特 別 支 援 教 育 論	講義		2					2					
	教 育 課 程 論	講義		2	2									
B	道 徳 の 指 導 法	講義		2			2							
	特 別 活 動 の 指 導 法	講義		2					2					
	総 合 的 な 学 習 の 時 間 の 指 導 法	講義		2						2				
	教 育 の 方 法 と 技 術	講義		2				2						
	生 徒 指 導 論	講義		2		2								
	教 育 相 談 (カウ ン セ リ ン グ を 含 む)	講義		2				2						
C	栄 養 教 諭 教 育 実 習 指 導	講義		1						1				
	栄 養 教 諭 教 育 実 習	実習		1							(2)			
	教 職 実 践 演 習 (栄 養 教 諭)	演習		2									4	

(注) 1. A欄は「教育の基礎的理解に関する科目」

B欄は「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」

C欄は「教育実践に関する科目」

※教育の基礎的理解に関する科目等の修得方法はP36を参照すること。

※教育の基礎的理解に関する科目等は卒業に必要な単位に含めない。

(注) 2. 開講学年・時期は各年度の授業計画により変更する場合がある。

(注) 3. 週時間数に ( ) が記してある科目は学外実習であることを示す。

## 健康科学部 教育の基礎的理解に関する科目等〉カリキュラムマップ

目標のキーワード

到達目標 (学修成果目標)

DP: デイプロマポリシー

①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体性・多様性・協働性	①DP1 教職に関する幅広い基礎知識と技能および、栄養の専門的知識と技能を有し、授業の構成や教材・教具の工夫ができる。
	②DP2 学校現場等で生じている問題や地域や社会全体に関わる課題について、適切な対応を考え議論することができ、理論と実践を結びつけることができる。
	③DP3 教育的愛情を持って児童・生徒に接することができる、対人関係力を身につけ、社会の一員として適切な行動ができる。

### 科目別目標

学年	期	科目名	①	②	③
1	前期	教育原理	○	◎	
		教育課程論	◎	○	
	後期	教育史	◎		
		生徒指導論	○	◎	
2	前期	教育心理学	◎	○	
		教育制度論	◎	○	
		道徳の指導法	◎		○
	後期	教師論		◎	○
		教育の方法と技術	◎	○	
		教育相談 (カウンセリングを含む)	◎	○	

特に重点的に育成する能力 = ◎、重点的に育成する能力 = ○

学年	期	科目名	①	②	③
3	前期	特別活動の指導法	◎		○
		特別支援教育論		◎	○
	後期	総合的な学習の時間の指導法	◎	○	○
		栄養教諭教育実習指導		○	◎
4	前期	栄養教諭教育実習		○	◎
	後期	教職実践演習 (栄養教諭)	○	○	◎



# 〈健康科学部 教育の基礎的理解に関する科目等〉カリキュラムツリー

## ツリーの見方

科目間の→は履修順序を示す(逆方向の履修は控える)。

科目分類	1年		2年		3年		4年		到達目標
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
教育の基礎的理解に関する科目	教育原理	教育史	教育心理学 教育制度論	教師論	特別支援教育論				◇教職の意義や教員の役割について理解し、教員の職務内容についての知識を身に付けている。 ◇特別な支援を要する児童・生徒への教育理論を修得する。 ◇教育の理念・歴史・思想について理解し、児童・生徒の心身の発達や学習の過程についての理論を修得する。 ◇教育課程の意義や編成の方法、教育に関する社会的、制度的または経営的事項に関する知識を身に付けている。
	教育課程論								
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目			道徳の指導法	教育の方法と技術	特別活動の指導法	総合的な学習の時間の指導法			◇道徳・特別活動・総合的な学習の時間についての指導法や情報機器及び教材の活用についての技術を身に付けている。 ◇生徒指導及び教育相談についての理論や方法を身に付けている。
		生徒指導論		教育相談(カウンセリングを含む)					
教育実践に関する科目						米養教諭教育→ 実習指導	米養教諭 教育実習		◇教育実習において教員として必要な実践的な技術を修得するとともに、教職実践演習において教職についての知識・技術の補完と統合を行い、教員として必要な最低限の資質を身に付けている。

教育の基礎的理解  
に関する科目等

# IV. 免許・資格

## 1. 教員免許状

〔1〕健康科学部(健康栄養学科)で教員免許状授与の所要資格を取得できる免許状は次のとおりです。

学 科	免 許 状 の 種 類
健 康 栄 養 学 科	栄 養 教 諭 一 種 免 許 状

〔2〕教員免許状を取得するためには、基礎資格(下表)を有し、「教育職員免許法及び同法施行規則」に定められた科目を履修し、所定の単位数を修得しなければなりません。

- 1) 免許状の種類にかかわらず「日本国憲法」「体育」「外国語コミュニケーション」「情報機器の操作」について、それぞれ2単位以上を修得しなければなりません。(35ページ、表1)
- 2) 法により栄養教諭は「栄養に係る教育に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目等」がそれぞれ規定されています。(下表)  
履修方法を表2-1以降に掲載していますので、それに基づいて必要な科目及び単位数を修得してください。

免 許 状 の 種 類	基 礎 資 格	専 門 科 目 の 最 低 修 得 単 位 数	
		栄 養 に 係 る 教 育 に 関 す る 科 目	教 育 の 基 礎 的 理 解 に 関 す る 科 目 等
栄 養 教 諭 一 種 免 許 状	学士の学位を有すること、かつ、管理栄養士養成施設の課程を修了し、栄養士の免許を受けていること。	4	18

(注) この表で示しているのは、法規上の最低修得単位数です。本学で必要とする単位数は36ページの各表に示してあります。

### 〔3〕教育実習の履修について

栄養教諭の教育実習の単位修得には、「学校現場における実習」(1単位)と「事前及び事後の指導」(1単位)が必要です。

事前及び事後の指導の授業科目として、「栄養教諭教育実習指導」を開講しています。その授業内容は次のとおりです。

#### 1. 事前指導

- (1) 実習の内容及び心得等
- (2) 実習記録の書き方
- (3) 学習指導案の作成
- (4) 模擬授業の実施

#### 2. 事後指導

- (1) 実習報告会
- (2) 実習体験レポート提出

教育実習校の決定後はその変更はできません。また教育の基礎的理解に関する科目等が4単位以上不合格の場合は、実習が認められないことがあります。

実習にあたっては、本学及び実習校の指示に従わなくてはなりません。もしもその指示に反した場合には、実習を中止させられることがあります。教育実習を履修する学生は、教育実習に必要な諸経費を所定の期間内に納めなくてはなりません。

### 〔4〕教員免許状の授与申請について

栄養教諭の教員免許状は、本学で一括して申請し、栄養士免許証の取得後に渡します。申請に必要な諸経費を所定の期間内に納めなくてはなりません。

〔教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目〕

所要資格の取得には、免許状の種類にかかわらず、表1に掲げる科目及び単位数を修得しなければなりません。

(表1)

免許法施行規則第66条の6に定める科目区分		開設授業科目	単位数		備考
科目	単位数		必	選	
日本国憲法	2	日本国憲法	2		
体育	2	スポーツ1 スポーツ2	1 1		
外国語コミュニケーション	2	Basic English 1 Basic English 2 総合英語A-1 総合英語A-2	1 1 1 1		
情報機器の操作	2	情報処理演習1 情報処理演習2	1 1		
備考	各科目区分における開設科目をそれぞれ2単位以上修得すること。				

〔栄養に係る教育に関する科目〕

健康栄養学科

栄教一種免

(表2-1)

免許法施行規則に定める科目区分等		栄養教諭一種免許状			
各科目に含める必要事項	単位数	開設授業科目	単位数		備考
			必	選	
・ 栄養教諭の役割及び職務内容に関する事項 ・ 食生活に関する歴史的及び文化的事項 ・ 幼児、児童及び生徒の栄養に係る課題に関する事項	2単位	栄 養 教 諭 概 論	2		
・ 食に関する指導の方法に関する事項	2単位	学 校 栄 養 教 育 論	2		
合 計	4単位				

〔教育の基礎的理解に関する科目等〕

健康栄養学科

栄教一種免

(表2-2)

免許法施行規則に定める科目区分等			栄養教諭一種免許状			
科目	各科目に含める必要事項	単位数	開設授業科目	単位数		備考
				必	選	
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	8単位	教 育 原 理 史	2	2	
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教 師 論	2		
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教 育 制 度 論	2		
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教 育 心 理 学	2		
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特 別 支 援 教 育 論	2		
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		教 育 課 程 論	2		
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳、特別活動及び総合的な学習の時間に関する内容	6単位	道 徳 の 指 導 法	2		
	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)		特 別 活 動 の 指 導 法	2		
	生徒指導の理論及び方法		総 合 的 な 学 習 の 時 間 の 指 導 法	2		
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		教 育 の 方 法 と 技 術	2		
教育実践に関する科目	栄 養 教 育 実 習	2単位	生 徒 指 導 論	2		
	教 職 実 践 演 習		教 育 相 談 (カウセリングを含む)	2		
栄 養 教 諭 教 育 実 習 指 導	栄 養 教 諭 教 育 実 習	1	1			
教 職 実 践 演 習 (栄養教諭)		2				
合 計		18単位				必修を含めて28単位以上修得のこと。

## 2. 管理栄養士(健康栄養学科)

### 1) 管理栄養士になるために

健康栄養学科においては栄養士免許証取得に必要な専門科目を履修すれば卒業と同時に栄養士免許が得られます。また、管理栄養士国家試験受験資格を取得するために必要な専門科目をすべて修得すると、「管理栄養士国家試験」が受験できます。(39ページ参照)

### 2) 管理栄養士の臨地実習

健康栄養学科において管理栄養士国家試験受験資格を取得するためには、臨地実習4単位を修得しなければなりません。臨地実習施設は医療機関、福祉施設、事業所、小学校、保健所などです。

臨地実習を履修する学生は臨地実習事前事後演習を履修し、担当教員による指導を受けてください。健康状態、単位修得状況、事前事後演習の成績などによって臨地実習の履修の可否が決められます。実習先では配属機関の指導者の指示にしたがって実習を行います。

臨地実習を履修するためには、それに必要な諸経費を所定の期間内に納める必要があります。



栄養士免許証取得に必要な専門科目

栄養士

栄養士法施行規則に定める科目区分		本学における開設科目	単位数
必修科目	社会生活と健康	公衆衛生学	2
		社会福祉概論	2
	人体の構造と機能	解剖生理学 1	2
		解剖生理学 2	2
		解剖生理学実験	1
		構造生化学	2
		生化学基礎実験	1
		運動生理学	2
	食品と衛生	食品学総論	2
		食品学各論(食品加工学を含む)	2
		食品学基礎実験	1
		食品衛生学(微生物学を含む)	2
		食品衛生学実験	1
	栄養と健康	基礎栄養学	2
		基礎栄養学実験	1
		ライフステージ栄養学 1	2
		ライフステージ栄養学 2	2
		応用栄養学実習	1
臨床栄養学 1		2	
臨床栄養学 2		2	
臨床栄養学実習		1	
栄養の指導	栄養教育論	2	
	栄養カウンセリング論	2	
	栄養教育実習	1	
	公衆栄養学	1	
給食の運営	調理学	2	
	調理学実習 1	1	
	調理学実習 2	1	
	調理科学実験	1	
	給食経営管理論	2	
	給食経営管理基礎実習	1	
	給食経営管理応用実習	1	
	給食経営管理校外実習	1	
合計	33科目	52単位	



### 3. 食品衛生監視員および食品衛生管理者(健康栄養学科)

健康栄養学科においては、食品衛生監視員および食品衛生管理者の任用資格が得られます。そのためには、下記の「食品衛生監視員および食品衛生管理者の任用資格を得るために必要な科目」について、40単位全てを修得しなければなりません。

#### 食品衛生監視員および食品衛生管理者の任用資格を得るために必要な科目

養成施設指定科目区分	本学における開設科目	単位数
A群：化学関係	基礎化学（有機化学を含む）	2
B群：生物化学関係	構造生化学	2
	生化学基礎実験	1
	解剖生理学1	2
	解剖生理学2	2
	解剖生理学実験	1
	食品学総論	2
	食品学各論（食品加工学を含む）	2
	食品学基礎実験	1
C群：微生物学関係	食品衛生学（微生物学を含む）	2
	食品衛生学実験	1
D群：公衆衛生学関係	公衆衛生学	2
	給食経営管理論	2
	給食経営管理基礎実習	1
E群：その他の関連科目	基礎栄養学	2
	ライフステージ栄養学1	2
	ライフステージ栄養学2	2
	臨床栄養学1	2
	臨床栄養学2	2
	公衆栄養学1	2
	健康管理概論	2
	調理学	2
	調理学実習1	1
合計	23科目	40単位
備考	A群からE群まで23科目40単位必修	

## 4. 看護師(看護学科)

### 1) 看護師とは

保健師助産師看護師法の第5条において「看護師とは、厚生労働大臣の免許を受けて、傷病者若しくはじょく婦に対する療養上の世話又は診療の補助を行うことを業とする者をいう。」と定められています。看護師は、医療、保健、福祉などの場において、他職種との連携を図り、専門的な知識、技術に基づいて病気や障がいを持つ人々の療養上の世話や診療の補助を行います。また医療チームの一員として、対象者の方々の身体と心の両面をサポートし、すべての健康レベルの人々に対応した健康と福祉に貢献できることをめざします。

### 2) 看護師になるためには

看護師免許(国家資格)を取得するためには、厚生労働省が所管する「看護師国家試験」に合格し、資格を取る必要があります。これは、保健師助産師看護師法の第7条において「看護師になろうとする者は、看護師国家試験に合格し、厚生労働大臣の免許を受けなければならない。」と定められているためです。看護師国家試験の受験資格は、文部科学大臣の指定した学校教育法に基づく大学などにおいて看護師になるために必要な科目を修めて卒業した者に与えられます。看護学科では所定の127単位を得ることによって、看護師国家試験の受験資格を得ることができます。

#### 看護師コース

科目区分	卒業要件
全学共通科目	必修7単位を含む11単位以上履修
学部共通科目	必修3単位を含む5単位以上を履修
看護基礎関連科目	必修38単位以上を履修
専門科目Ⅰ	必修14単位を履修
専門科目Ⅱ	必修44単位を履修
専門科目Ⅲ	必修13単位と学科間連携科目2単位を含む15単位以上を履修
卒業要件単位数	127単位以上

### 3) 看護師の臨地実習

臨地実習施設は医療機関のみならず、在宅、福祉施設(医療福祉センター、心身障がい者施設、老人保健施設)も含み、障がいをもつ子ども(人)とその家族の特徴を理解し、個別性のある生活・看護を学びます。また、医療機関においては、地域医療連携の実際、その部署におけるチーム運営の実際、情報共有や情報保護の実際、生活支援に応えるチームワーク(チームケアカンファレンスなど)の実際を体験することにより、看護専門職としての自己のあり方を省察します。

## 5. 保健師(看護学科)

### 1) 保健師とは

保健師とは、保健師助産師看護師法の第2条において「厚生労働大臣の免許を受けて、保健師の名称を用いて保健指導に従事することを業とする者」と定められています。保健師は地域で生活している人たちの健康保持・増進に向けた支援を行い、予防や衛生等の活動を行う仕事です。健康な人も病気を持っている人も全ての人を対象にし、乳幼児から高齢者まで幅広い世代と関わり、健康増進や生活の質の向上をサポートします。保健師は、主に都道府県や市町村の保健所・保健センターなどで行政職として従事する行政保健師、企業などで産業保健スタッフとして勤務する産業保健師、学校などで学生や教職員の心身の健康保持に努める学校保健師に大きく区分されます。

### 2) 保健師資格を取得するには

保健師の資格は、保健師国家試験および看護師国家試験に合格することで得ることができます。保健師国家試験を受験するためには、文部科学大臣の指定した学校などにおいて必要な科目を修める必要があります。保健師国家試験受験資格取得希望者は、あらかじめ1年次に開講される「日本国憲法」「健康科学」「基礎統計処理」と、第2年次に開講される「保健統計」を選択し、単位を修得しておくことが必要です。看護学科における保健師コースは1学年12名程度とし、第2年次の後期に選抜します。

#### 保健師コースの卒業要件

科目区分	卒業要件
全学共通科目	必修11単位以上履修
学部共通科目	必修5単位以上を履修
看護基礎関連科目	必修44単位以上を履修
専門科目Ⅰ	必修14単位を履修
専門科目Ⅱ	必修44単位を履修
専門科目Ⅲ	必修28単位と学科間関連科目2単位を含む30単位以上を履修
卒業要件単位数	148単位以上

### 3) 保健師の臨地実習

第4年次に「公衆衛生看護学実習Ⅰ」「公衆衛生看護学実習Ⅱ」を履修します。「公衆衛生看護学実習Ⅰ」においては、地域で生活している人々の健康水準とQOL(Quality Of Life)の向上を目指す公衆衛生看護活動の実際を学びます。「公衆衛生看護学Ⅱ」では、産業保健活動・学校保健活動が展開される場において、各看護活動の特徴や役割を学びます。また、これら臨地実習に必要な実習費は自己負担とし、所定の期間内に納めなければなりません。

### 4) 保健師コース学生選抜について

看護学科において保健師コースを選択できる学生は12名程度となっており、第2年次の後期に選抜試験を実施します。この12名は、保健師国家試験受験資格取得に必要な科目(表1)を修得している条件を満たした希望者のうち、第2年次修了時までの必修専門科目のGPAと小論文、面接評価の上位者から選抜します。第1年次・第2年次にガイダンスを行い、第2年次1月末頃に志願票提出、3月中旬に

選抜、3月下旬に合格者の決定とガイダンスを予定しています。第3年次前期より公衆衛生看護学に関する選択科目を履修し、第4年次に公衆衛生看護学実習を履修します。

(表1) 保健師国家試験受験に必要な選択すべき科目

科目区分	授業科目の名称	開講時期
全学共通科目	日本国憲法 2単位	1年後期
	健康科学 2単位	1年前期
学部共通科目	基礎統計処理 2単位	1年後期
看護基礎関連科目	保健統計学 2単位	2年前期

## 5) 養護教諭二種免許状の取得について

教職員免許法別表第2の規定により、保健師免許を基礎資格として養護教諭二種免許状の授与を受けることができます。保健師免許取得後、各都道府県の教育委員会へ個人申請を行うことで養護教諭二種免許状を取得することができます。そのためには、第1～2年次で、「日本国憲法」の2単位、「スポーツ1・2」の2単位、「Basic English 1・2」と「総合英語A-1・A-2」のうち2単位、「情報処理演習1・2」の2単位を修得しておく必要があります。

免許法施行規則第66条の6に定める科目区分		開設授業科目	単位数	備考
科目	単位数			
日本国憲法	2	日本国憲法	2	
体育	2	スポーツ1	1	
		スポーツ2	1	
外国語コミュニケーション	2	Basic English 1	1	
		Basic English 2	1	
		総合英語A-1	1	
		総合英語A-2	1	
情報機器の操作	2	情報処理演習1	1	
		情報処理演習2	1	
備考	各科目区分における開設科目をそれぞれ2単位以上修得すること。			

## 6) 第1種衛生管理者免許の取得について

保健師免許取得後、各都道府県の労働基準局に個人申請を行うことにより、衛生管理者（第1種）を取得することができます。

労働安全衛生法により、常時50人以上の労働者を使用する事業者では、衛生管理者免許を有する者のうちから、労働者数に応じ一定数以上の衛生管理者を選任することが義務付けられています。

## 7) 保健師に従事することにより取得できる資格

- ・健康運動指導士：健康・体力づくり事業財団が実施する講習会受講後受験
- ・健康運動実践指導者：健康運動実践指導者養成校での養成講座受講後、健康運動実践指導者認定試験受験（健康運動実践指導者台帳に登録）
- ・介護支援専門員：介護支援専門員実務研修受講後受験（5年以上の実務経験）



# 履修モデル(看護師コース)

		1 年 次				2 年 次				
		前 期		後 期		前 期		後 期		
全学共通科目	人間形成科目	○建学のこころ	1							
	一般教育科目	○初年次セミナー	2	心のしくみ	2					
	芸術科目									
	外国語科目	○Basic English 1	1	○Basic English 2	1	総合英語B-1	1	総合英語B-2	1	
	情報・表現科目		○総合英語A-1	1	○総合英語A-2	1				
			情報処理演習1	1	情報処理演習2	1				
体育・健康科目		日本語表現法1	1							
科共学 目通部	基礎関連科目	○健康科学概論	2	○基礎ゼミナール	1					
		情報処理概論	2	基礎統計処理	2					
看護 関 連 科 目	健康と食	○口腔健康管理学	2	○栄養学(生化学含む)	2	○食と健康	2			
	健康と心	○人間関係論	2			○臨床心理学	2			
		○コミュニケーション論	2			○カウンセリング技術	1			
	健康生活と支援			○女性の健康科学	1	○社会福祉	2			
				○医療関係法	1	○公衆衛生学	2			
	人体の構造と機能	○人体構造・人体機能学Ⅰ			2					
		○人体構造・人体機能学Ⅱ			2					
	疾病の成り立ちと回復促進			○病理/感染症学	2	○病態と治療Ⅰ	2			
			○臨床薬理学	2	○病態と治療Ⅱ	2				
					○病態と治療Ⅲ	2				
					○病態と治療Ⅳ	2				
専門科目Ⅰ	基礎看護学	○看護学概論	2	○看護倫理・生命倫理	2	○看護過程	2	○基礎看護学実習Ⅱ	2	
		○基礎看護技術演習Ⅰ(基礎看護技術)	1	○基礎看護技術演習Ⅱ(日常生活援助技術)	2	○基礎看護技術演習Ⅲ(診療援助技術)	1			
		○基礎看護学実習Ⅰ	1	○フィジカルアセスメント	1					
専門科目Ⅱ	臨床看護領域 成人看護学					○成人看護学概論	2			
						○成人看護援助論Ⅰ(慢性期)		2		
							○成人看護援助論Ⅱ(急性期)	2		
	発達看護領域 小児看護学						○小児看護学概論	2		
							○小児看護援助論Ⅰ	1		
	母性看護学						○母性看護学概論	2		
							○母性看護援助論Ⅰ	1		
	地域包括ケア 老年看護学						○老年看護学概論	2	○老年看護援助論Ⅰ	1
		精神看護学						○精神看護学概論	2	
								○精神看護援助論Ⅰ	1	
							○在宅看護学概論	2		
在宅看護学										
専門科目Ⅲ	看護の統合と実践									
	学科間連携科目						臨床栄養学Ⅰ	1		
取得単位数		21		25		25		20		

履修モデル  
(看護師コース)

3年次				4年次				取得単位数
前期		後期		前期		後期		
								1
								4
								0
								6
								3
								0
								7
○栄養指導論	1							7
								7
○健康管理学	2							10
保健行動論	2							
								4
								12
								14
		○成人看護学実習Ⅰ(慢性期)	3					12
		○成人看護学実習Ⅱ(急性期)	3					
○小児看護援助論Ⅱ	1	○小児看護学実習	2					6
○母性看護援助論Ⅱ	1	○母性看護学実習	2					6
○老年看護援助論Ⅱ	1	○老年看護学実習	4					8
○精神看護援助論Ⅱ	1	○精神看護学実習	2					6
○在宅看護援助論Ⅰ	1			○在宅看護学実習	2			6
○在宅看護援助論Ⅱ	1							
○看護管理	1			○看護学研究ゼミナール(卒論)			2	15
○医療安全	1			○看護の統合と実践実習	2	家族看護論	1	
				○健康科学特論	2	チーム医療連携論	1	
○緩和ケア論	1					○災害看護論	1	
○看護学研究方法論	1					○国際看護論	1	
						○認知症看護援助論	1	
応用栄養学実習	1					ライフステージ栄養学1	1	4
						ライフステージ栄養学2	1	
16		16		6		9		138

履修モデル  
(看護師コース)

# 履修モデル(保健師コース)

		1年次				2年次			
		前期		後期		前期		後期	
全学共通科目	人間形成科目	○建学のこころ	1						
	一般教育科目	○初年次セミナー	2	◎日本国憲法	2				
	芸術科目								
	外国語科目	○Basic English 1	1	○Basic English 2	1				
		○総合英語A-1	1	○総合英語A-2	1				
	情報・表現科目	●情報処理演習1	1	●情報処理演習2	1				
体育・健康科目	●スポーツ1	1	●スポーツ2	1					
	◎健康科学	2							
科共学目通部	基礎関連科目	○健康科学概論	2	○基礎ゼミナール	1				
				◎基礎統計処理	2				
看護関連科目	健康と食	○口腔健康管理学	2	○栄養学(生化学含む)	2	○食と健康	2		
	健康と心	○人間関係論	2			○臨床心理学	2		
		○コミュニケーション論	2			○カウンセリング技術	1		
	健康生活と支援			○女性の健康科学	1	○社会福祉	2		
				○医療関係法	1	○公衆衛生学	2		
						◎保健統計学	2		
	人体の構造と機能			○人体構造・人体機能学Ⅰ		2			
				○人体構造・人体機能学Ⅱ		2			
	疾病の成り立ちと回復促進			○病理/感染症学	2	○病態と治療Ⅰ	2		
			○臨床薬理学	2	○病態と治療Ⅱ	2			
					○病態と治療Ⅲ	2			
					○病態と治療Ⅳ	2			
専門科目Ⅰ	基礎看護学	○看護学概論	2	○看護倫理・生命倫理	2	○看護過程	2	○基礎看護学実習Ⅱ	2
		○基礎看護技術演習Ⅰ(基礎看護技術)	1	○基礎看護技術演習Ⅱ(日常生活援助技術)	2	○基礎看護技術演習Ⅲ(診療援助技術)	1		
		○基礎看護学実習Ⅰ	1	○フィジカルアセスメント	1				
専門科目Ⅱ	関連領域 成人看護学					○成人看護学概論	2		
						○成人看護援助論Ⅰ(慢性期)		2	
							○成人看護援助論Ⅱ(急性期)	2	
	関連領域 小児看護学						○小児看護学概論	2	
							○小児看護援助論Ⅰ	1	
							○母性看護学概論	2	
	地域包括ケア 在宅看護学						○母性看護援助論Ⅰ	1	
						○老年看護学概論	2	○老年看護援助論Ⅰ	1
						○精神看護学概論	2		
						○精神看護援助論Ⅰ	1		
						○在宅看護学概論	2		
専門科目Ⅲ	看護の統合と実践								
	学科間連携科目						臨床栄養学Ⅰ	1	
公衆衛生看護学									
取得単位数		21		26		26		19	

履修モデル(保健師コース)

3年次				4年次				取得単位数
前期		後期		前期		後期		
								1
								4
								0
								4
								2
								4
								5
○栄養指導論	1							7
								7
◎疫学	2							16
◎保健医療福祉行政論	2							
保健行動論	2							
○健康管理学	2							
								4
								12
								14
		○成人看護学実習Ⅰ(慢性期)	3					12
		○成人看護学実習Ⅱ(急性期)	3					
○小児看護援助論Ⅱ	1	○小児看護学実習	2					6
○母性看護援助論Ⅱ	1	○母性看護学実習	2					6
○老年看護援助論Ⅱ	1	○老年看護学実習	4					8
○精神看護援助論Ⅱ	1	○精神看護学実習	2					6
○在宅看護援助論Ⅰ	1			○在宅看護学実習	2			6
○在宅看護援助論Ⅱ	1							
○看護管理	1			○看護学研究ゼミナール(卒論)			2	13
○医療安全	1			○看護の統合と実践実習	2	○災害看護論	1	
○緩和ケア論	1			○健康科学特論	2	○国際看護論	1	
○看護学研究方法論	1					○認知症看護援助論	1	
						ライフステージ栄養学1	1	3
						ライフステージ栄養学2	1	
◎公衆衛生看護概論	2			◎公衆衛生援助論Ⅱ	2			15
◎公衆衛生管理論	2			◎公衆衛生看護実習Ⅰ			3	
◎公衆衛生看護活動展開論	2			◎公衆衛生看護実習Ⅱ			2	
◎公衆衛生援助論Ⅰ	2							
27		16		8		12		155

履修モデル  
(保健師コース)

# V. 海外留学

## 「留学」について

- 1) 外国の大学や、それに相当する高等教育機関に学ぶことを希望し、所定の手続きをして教授会で許可されれば、本学に在籍したまま留学することができます。
- 2) 留学には、次の2種類があります。
  - ① 本学と留学協定を結んだ大学への留学(=協定留学)
  - ② 学長が認めたその他の大学・高等教育機関への留学(=認定留学)
- 3) 本学の留学制度の主な点の概要は次のとおりですが、詳しいことは学科の先生か、海外交流室に尋ねてください。海外交流室がおこなう留学説明会で話を聞くこともできます。

### 〈留学の資格〉

本学に1年以上在学し、教授会が定める所定の単位数を修得した者

### 〈留学期間〉

1年以内(ただし、特に必要と認められれば1年以内に限って延長できるが、修業年限に算入できるのは1年が限度)。

### 〈出願手続き〉

「留学願」は必要書類とともに、定められた期間に海外交流室に提出してください。

### 〈単位の認定〉

留学先で取得した授業科目の単位は60単位を上限として、本学で取得した単位として認められます。

単位の認定を希望する場合は、留学前に学科の先生に相談して指導を受けてください。

### 〈留学中の納付金と助成〉

別に定めがあります。

- 4) 留学を実現するまでには入念な準備が必要です。留学を考えるにあたって、次のことをしっかり考えてください。
  - ① 何を勉強したいのか。  
将来の目標も含めてじっくり考え、その目標達成のために、留学が最も適切な選択かどうかを見きわめます。
  - ② どの国の、どんな学校で学びたいか。  
自分に適した留学先、学校(大学、短期大学、語学学校、専門学校)を、履修したい科目や必要経費のことなども含めて検討してください。
  - ③ 何年次の、いつからいつまでの留学か。
  - ④ 留学に必要な語学力・学力を備えているか。
  - ⑤ 留学費用の資金計画は十分か。

# VI. 履修の案内

## 1. 履修登録について

### 履修登録

みなさんは、自己の責任において、履修すべき授業科目を決定し、所定の期間内に登録の手続きを完了しなければなりません。登録を怠れば、当該年度における授業科目の履修の権利を放棄したことになります。

1. 履修登録は、年1回4月に行います。

各年度の履修登録に関しては、別途配付する「ポータルサイト操作マニュアル」にしたがってください。

2. 「履修確認」画面で必ず履修内容を確認してください。履修登録(後期科目)の修正が必要となった場合、後期登録修正期間内に修正を行うことができます。

1) 後期登録修正(9月):対象は後期科目のみです。

### 履修登録の留意点

1. 「授業計画(シラバス)」を熟読し、卒業要件、各種免許・資格に必要な科目、単位を確認して、履修計画を立ててください。

(注) 履修登録確定後に授業科目の受講を放棄した場合はGPAに影響しますので、注意してください。

2. 授業時間割で履修する科目の曜日・時限を確認し、履修登録しようとする科目が重複しないように注意してください。

3. 登録ミス、登録漏れのないように注意して登録してください。

4. 定員が設定されている抽選科目は、抽選後に必ず受講可能か確認してください。

[ポータルサイトURL] <https://portal.nagoya-wu.ac.jp/campusweb/top.do>

5. 履修登録確定後の授業科目の追加・変更及び放棄は原則として認められません。

6. 履修者が少ない授業科目は、不開講となることがあります。

### 履修登録の上限設定

各学期・年間の履修登録をする際に、登録科目数(単位数)の上限を設定しています。履修登録科目数(単位数)の上限を設定することをCAP制といいます。

登録科目数(単位数)の上限設定により、多くの科目を広く浅く学修するのではなく、学修すべき授業の単位制度が実質化(1単位を取得するにあたって必要な学修時間45時間を確保)され、各年次にわたって適切に授業科目を履修でき、授業内容を深く身に付けられるようになります。

上限単位数の設定は、学科、学年により多少の違いがありますが、以下のとおりです。

学部	学科	履修科目の上限単位数							
		1年次		2年次		3年次		4年次	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
健康科学部	健康栄養学科	24	22	20	22	20	22	20	20
	看護学科	48		48		48		48	

1. 上限単位数から除外する科目等

(1) 「大学、短大以外の教育施設等における学修」及び「入学前の既修得単位」の認定単位

(2) 全学科共通: 「建学のこころ」「初年次セミナー」教育の基礎的理解に関する科目等

(3) 健康栄養学科: 「卒業研究」「校外実習」「臨地実習」「国際健康栄養演習(海外研修)」



2. 集中講義科目、愛知学長懇話会における単位互換科目および名古屋女子大学短期大学部単位互換科目は当該開講学期に含めます。
3. 特に必要と学長が認めた学生は、上限単位数を超えて履修登録を認めることがあります。この場合の単位数は教授会で決定します。
4. 通年開講科目の単位は、前期・後期に等分して、各学期に配分します。  
なお、年間で上限単位を定めている場合の、前期、後期ごとの履修単位数の配分については弾力的に扱います。学科の履修指導に従ってください。

## 1. 特別履修届の提出について

以下に該当する場合は、特別履修届を学生支援センターへ提出する必要があります。特別履修届は、学生支援センターにあります。

- ① 全学共通科目[必修科目]を他学科で下級履修する場合
- ② 全学共通科目(外国語科目)を他学科で履修(あるいは下級履修)する場合
- ③ 健康科学部共通科目(基礎関連科目)を他学科で履修(あるいは下級履修)する場合
- ④ 専門科目を他クラスで履修(あるいは下級履修)する場合
- ⑤ 振替を要する科目を履修する場合

## 2. 資格・免許の申請、取り消しについて

免許・資格申請の登録を履修登録期間中に履修登録画面の「資格申請」から必ず行ってください。また、登録した資格・免許を取り消す場合は、「免許・資格取消申請書」を提出してください。

申請書は、学生支援センターにあります。

## 2. 授業及び試験について

### 授 業

#### 〔1〕 授業の開講形態

本学で開講される授業の開講形態は次のとおりです。

- 1) 通年開講………1年間にわたって授業が行われます。
- 2) 半期開講………前期あるいは後期の半年間原則として授業が行われます。
- 3) 集中講義………上記の通年または半期科目が、教育上特別の必要があると認められる科目、あるいは特別の事情により毎週授業が行えない場合、夏期及び冬期の休業期間中またはその前後に短期間集中的に行われます。

#### 〔2〕 授業時間割

学生ポータルサイトで確認ができます。また、学生支援センター前ホール掲示板にも掲示します。(事情により授業時間割・教室を変更したときも学生ポータルサイト(教務掲示一覧)と掲示板でお知らせします。)

#### 〔3〕 授業・試験時間

本学の授業及び試験の時間は次のとおりです。

1・2限	9：00～10：30	1・2・3限	9：00～11：20
3・4限	10：40～12：10	2・3・4限	9：50～12：10
5・6限	13：00～14：30	5・6・7限	13：00～15：20
7・8限	14：40～16：10	7・8・9限	14：40～17：00
9・10限	16：20～17：50		

#### 〔4〕 休 講

本学の行事あるいは授業担当教員のやむを得ない理由により、授業を休講にすることがあります。

- 1) あらかじめわかっている休講は、学生支援センター前ホール掲示板に掲示します。
- 2) 休講掲示がなく、始業時間から30分以上経過しても授業担当教員が現れず、また何の連絡もない場合は学生支援センターに連絡をし、指示を受けてください。
- 3) 災害及び交通機関ストライキの場合  
地震、台風等の災害や交通機関のストライキにより運行が中止された場合の授業、試験は、次のとおり取り扱います。

災害及び交通機関ストライキに係る発表・発令等		発表・発令等の時間	本学の講ずる措置
「南海トラフ地震臨時情報」の発表	「南海トラフ地震臨時情報(巨大地震警戒)」が発表された場合	発表時	発表以降、大学から授業、試験再開の連絡があるまで休講
	南海トラフ地震臨時情報の「調査中」、「調査終了」、「巨大地震注意」が発表された場合であっても、平常通り授業、試験を実施します。		
「特別警報」または「暴風警報」の発令	名古屋市に発令された場合	午前6時現在発令されている場合	午前中休講
		午前10時現在発表されている場合	全日休講

交通ストライキ	名古屋市営の交通機関、名鉄、JRのいずれか一つの交通機関が交通ストライキを行った場合(その他の交通機関は平常通り授業、試験を実施する)	午前6時現在 ストが継続している場合	午前中休講
		午前10時現在 ストが継続している場合	全日休講
上記以外の場合において、授業、試験を実施することが困難であると予想されるときは、本学の防災本部、防災対策委員会の指示により休講措置等の判断を行います。			

次の場合は、上の表に準じて取り扱います。(授業、試験は実施されますが、出校できなかった場合は、学生支援センターで必要な手続きをすることにより欠席とはみなしません。)

- ① 名古屋市以外の居住者の居住区域、通学経路に「特別警報」または「暴風警報」が発令された場合
- ② 災害等により、交通機関が不通になった場合
- ③ 上の表以外の交通機関がストライキを行った場合

※上記①～③により受験できなかった期末試験科目については、学生支援センターで所定の手続きをすれば、追試験が受験できます。

## 〔5〕補講

休講のため規定の授業時間数に満たない場合には補講が行われます。

補講は次の方法で行います。

- 1) 指定された土曜日に実施します。補講日として指定された土曜日は『Handbook(学生手帳)』で確認してください。
- 2) 授業期間中の空き時間に行います。
- 3) その他教員の指示がある場合には、それに従ってください。

補講の連絡は、学生支援センター前ホール掲示板に掲示します。

※ 学生ポータルサイトを利用して、授業時間割確認及び休講・補講・教室変更情報等を参照できます。また、メッセージ転送設定を設定すると登録されたアドレスに休講や補講等の情報が配信されます。使用方法は、「ポータルサイト操作マニュアル」を参照してください。

## 〔6〕欠席・遅刻・早退

- 1) やむを得ない理由(試験欠席の理由に順ずる)で授業を欠席する場合は、所定の欠席届を授業担当教員に提出してください。
- 2) 授業の遅刻・早退に関する取り扱いは次のとおりです。
  - ① 授業開始時間に遅れた者は遅刻として取り扱います。
  - ② 授業終了まで受講していない者は早退として取り扱います。
  - ③ 遅刻及び早退は計3回をもって欠席1回とみなします。
  - ④ 1回の授業時間の3分の1以上(講義・演習科目は30分以上、実験・実習科目は45分以上)の遅刻及び早退は欠席として取り扱います。

## 試験

### 〔1〕試験の種類と方法

試験の種類は、「期末試験」「追試験」及び「再試験」があります。

試験は、「筆記」「レポート」「論文」「作品」「実技・実習」等の方法で実施されます。

## 〔2〕 期末試験

- 1) 期末試験は、前期末に行うものを前期試験、後期末に行うものを後期試験といたします。
- 2) 期末試験は、前期開講科目については前期試験において、後期及び通年開講科目については後期試験において実施します。

## 〔3〕 追試験

- 1) 追試験は、次の授業科目について、やむを得ない理由で試験を欠席した者に対し、本学が指定する日に行います。
  - ① 期末試験を実施した授業科目
  - ② 期末試験に代えて授業担当教員が随時に行う試験で、事前に学生支援センターに追試験期間中に実施する旨の申し出があった授業科目
- 2) レポート、作品等の方法で試験を実施した授業科目は追試験を実施しません。
- 3) 追試験を欠席した者に対し、再度追試験は実施しません。
- 4) 追試験の受験は、欠席理由が以下のいずれかに該当し、当該理由を証明するに足る書類が提出され、教授会が許可した者について認められます。

## 〔4〕 やむを得ない理由を証明する書類

	欠 席 理 由	提 出 書 類
①	親族の危篤、死亡	理由を証明する書類または写し
②	不慮の事故または災害	事故等を証明する書類
③	病気または負傷	医療機関発行の診断書
④	公共交通機関の事故または遅延	事故又は遅延証明書
⑤	教育実習、管理栄養士臨地実習・栄養士校外実習、看護学臨地実習	証明書不要
⑥	就職試験(会社訪問は除く)の受験	本学所定の受験証明書
⑦	期末試験受験科目の実施日時の重複	本学所定の試験重複届
⑧	その他本学が認めた場合	理由を証明する書類

## 〔5〕 再試験

- 1) 再試験は、学生が期末試験を受験し、不合格となった授業科目について、前期開講科目は前期の再試験期間内において、後期および通年開講科目については後期の再試験期間内において実施します。  
なお、試験に代えた授業レポート、作品等の方法で試験を受験し不合格となった授業科目も再試験を実施する場合があります。
- 2) 願い出が遅れた場合は受験資格はありません。
- 3) 再試験を欠席した者に対して、その追試験は実施しません。また、追試験で不合格となった者に対して再試験は実施しません。ただし、卒業年次の学生で、追試験・再試験において、不合格となった授業科目が、必修科目および免許・資格(教員免許状、栄養士免許証、管理栄養士国家試験、看護師国家試験、保健師国家試験の受験資格)の取得要件科目の場合は、前・後期ともに1科目に限り再試験を実施することがあります。
- 4) 校外学習(教育実習、臨地実習など)が不合格となった場合の再試験は実施しません。

## 〔6〕追・再試験手続一覧

	追 試 験		再 試 験
	受験を希望する者	受験を許可された者	
提出書類	試験欠席届+証明書類	追試験申込書+追試験願出票	再試験申込書+再試験願出票
提出期限	指定された期日 (詳細日程は別途連絡)	所定の期間内 (詳細日程は別途連絡)	所定の期間内 (詳細日程は別途連絡)
出願科目数	上限なし		上限なし
提出先	学生支援センター		学生支援センター
受験手数料	1科目につき1,000円 (期末試験科目重複や校外実習による追試験は不要)		1科目につき2,000円

## 〔7〕受験資格

次のいずれかに該当する場合は、受験資格がありません。

- 1) 履修登録をしていない授業科目
- 2) 当該授業科目の規定授業時間数（半期7.5回、15回、通年30回）の3分の2以上出席していない者
- 3) 学生証を所持していない者
- 4) 試験開始後15分以上遅刻した者
- 5) その他、教授会において受験資格がないと認められた場合

## 〔8〕受験時の諸注意(期末試験、追・再試験)

次の受験時の諸注意は必ず守ってください。

### 〈受験態度〉

受験の際は、終始公正な態度を保ち、いささかでも他から疑念をいだかれるような行為をしない。まぎらわしい行為は不正行為とみなされる場合がある。

### 〈監督者の指示の遵守〉

試験室においては、常に監督者の指示に従う。

指示に従わなかった場合は、退室を命じられる。

### 〈学生証の提示〉

受験生は、監督者が学生証を確認しやすいように、机の上に置く。もし学生証を忘れた場合は、学生支援センターに申し出て、証明書自動発行機で仮学生証の交付を受ける。

ただし、仮学生証の有効期限は交付日のみとする。なお、交付のつど手数料1,000円が必要となる。また、学生証を紛失した場合は願い出れば、翌日の午前9時には再発行される。

### 〈不正行為〉

試験において万一不正行為があった場合、不正行為者の当該試験科目の評価は失格となる。また、不正行為のあった学期において既に実施済の科目および残された科目もすべて失格となる。

不正行為者は、学則第46条の規定により懲戒処分となり、その氏名および処分内容を学内に公表される。また、本人および保証人はその通知を受ける。

### 〈所持品の扱い〉

試験中は学生証、筆記用具(特に指示のない限り、鉛筆・シャープペンシル・消しゴムのみ)、監督者が許可したもの以外は机の上に置かない。

その他の手荷物も机の中に入れて、足元に置く。

携帯電話等は試験室に入る前に電源を切っておく。また、これらを時計として使用することはできない。

#### 〈参照許可物件〉

問題用紙に参照許可物件（テキスト、ノート、辞書等）が明示されている場合のみ、参照が許可される。

#### 〈遅刻〉

遅刻は試験開始後15分までは認められる。ただし、遅刻して受験した試験の時間延長は認められない。

なお、遅刻により受験できなかった科目は失格となる。

#### 〈退室〉

試験開始後30分を経なければ退室できない。途中退室する際は、答案を試験監督者に提出し静かに退室する。

#### 〈再入室の禁止〉

いかなる場合でも、試験室からいったん退室したら再入室は認められない。

#### 〈答案用紙〉

答案用紙は配付または指定されたものを使用し、書き損じたものや白紙のものも提出する。



### 3. 成績について

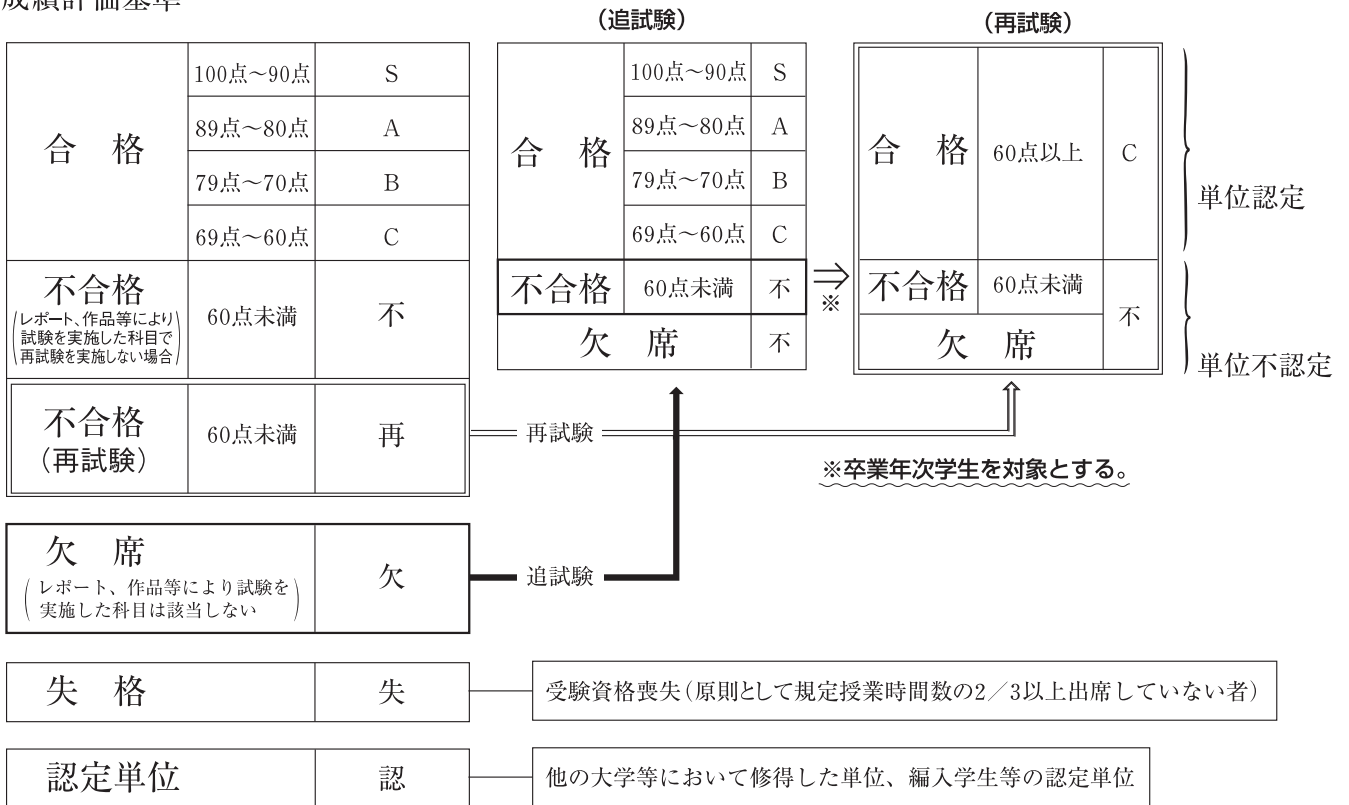
#### 〔1〕成績の評価・単位の認定

授業科目の成績評価は、試験成績と平常成績を総合して判定し、S、A、B、C、不とし、C以上を合格として当該授業科目の単位を認定する。

ただし、当該学期学費未納者については、学費完納まで単位認定を保留する。

なお、100点満点に換算した点数の評価基準は、次のとおりとする。

#### 成績評価基準



#### 〔2〕成績の通知

期末試験及び追・再試験の結果は、各学期の成績発表日に学生ポータルサイトの成績照会で各自確認してください。既修得単位科目の成績(成績の累算)も成績照会で確認できます。

ただし、卒業学年には各学期の成績発表時に成績通知表を配付します。

#### 〔3〕成績の問い合わせ

成績についての質問がある場合は、成績発表後3日以内(土・日・祝日除く)に学生支援センターに申し出て、「成績評価についての質問」に記入し提出してください。

## 4. GPAについて

GPAとは、Grade Point Average（グレード・ポイント・アベレージ）の略で、履修登録科目の評価等に対して、それぞれにGPを与え、獲得したポイント（GP×単位数）の合計を履修登録した総単位数で除した1単位あたりの成績平均値のことです。GPAを知ることによって、学業成績の状況を的確に判断し、自らの学修に対して主体的に自己評価することができ、その後の履修計画が適切にたてられます。

本学では、GPAを主に次の目的に利用するために導入しています。

- 1) 履修科目の安易な登録と、途中放棄の防止
- 2) GPA評価平均が下位25%の学生に対する修学支援
- 3) 奨学金授与等における判定基準
- 4) 就職活動等における推薦者の選抜基準

### 〔1〕 GP（グレード・ポイント）

最終成績評価（S：4、A：3、B：2、C：1、不認定：0、失格：0、認定：-）

### 〔2〕 不合格科目等の取り扱い

成績評価が不合格の科目、失格となった科目のGPはすべて「0」としてGPAの算出対象となります。「認」は、GPAの算出対象外になります。

### 〔3〕 GPAの算出式

各科目の成績評価を成績値（GP）に換算し、科目の単位数を掛けて、合計単位数を当該期で履修登録した科目の総単位数で割ったものがGPAとなります。

$$\text{GPA} = \frac{(4 \times \text{Sの修得単位数}) + (3 \times \text{Aの修得単位数}) + (2 \times \text{Bの修得単位数}) + (1 \times \text{Cの修得単位数})}{\text{総履修登録単位数}}$$

## 5. 単位互換制度について

単位互換制度とは大学間の協定に基づき、他の大学または短期大学で履修し修得した単位を在籍する大学の履修で修得したものとみなす制度です。本学では、「名古屋女子大学と名古屋女子大学短期大学部の単位互換に関する協定書」並びに、愛知学長懇話会に加盟する大学・短期大学において締結された「単位互換に関する包括協定」に基づく制度があります。

### 1. 名古屋女子大学短期大学部との単位互換制度

名古屋女子大学短期大学部の一部授業科目について履修及び単位取得が可能です。学生は、下記の内容を十分に理解して手続きをしてください。

#### (1) 名古屋女子大学短期大学部 単位互換科目一覧

授 業 科 目	授 業 形 態	単 位 数
生 活 マ ナ ー 演 習	演 習	1

#### (2) 履修対象者

1年生後期から2年生の学生

#### (3) 単位数の算入

上記単位互換科目は、卒業要件の一覧表の単位互換科目の単位数として算入されます。

#### (4) 履修登録について

上記科目を履修する際は、「単位互換科目履修願」を学生支援センターへ提出する必要があります。手続き期限は以下のとおりです。

前期科目：4月第2木曜日まで 後期科目：9月第2木曜日まで

### 2. 愛知学長懇話会の単位互換制度

他大学の単位互換向けに開放される科目の履修及び単位取得が可能です。詳しくは、学生支援センター前ホール掲示板と愛知学長懇話会ホームページを確認してください。

# 教務関係の用語

**お** オムニバス  
複数の教員が授業内容を分担して受け持つ方式のことです。

**か** 下級履修  
下級学年に担当されている授業科目を履修することです。

## 科目等履修生制度

資格取得等のために必要でありながら、在学中に履修しなかった(できなかった)、あるいは単位を認定されなかった科目を、卒業後に履修して単位を修得できる制度のことです。

**き** 期末試験  
学期末に行われる試験のことです。

## CAP制

各学期・年間の履修登録科目数(単位数)の上限を設定する制度のことです。

## 休学

病気等により一定期間授業を受けない状態のことです。休学するには所定の書式で届け出る必要があります。

## 休講

学校行事や授業担当教員の都合により、授業が行われないことです。

## 教育課程(カリキュラム)

教育の目的や目標を達成するため、どのような教育内容(授業科目)を、どれだけ(単位数)、どのような方法(必修・選択の別、担当する学年、授業期間・方法等)で教授するかを計画したものです。

**け** 欠席  
やむを得ない理由(試験欠席の理由に順ずる)で授業を欠席する場合は、所定の欠席届を授業担当教員に提出してください。

**さ** 在学  
本学の学生として、現に学修している(授業を受けている)状態のことです。

## 再試験

試験を受験し、不合格となった科目について、再度実施する試験のことです。

## 再履修

不合格となった科目を再度履修することです。合格して単位を認定された科目を再履修することはありません。

## し GPA

Grade Point Average(グレード・ポイント・アベレージ)の略で、履修登録科目の評価等に対して、それぞれにGPを与え、獲得したポイント( $GP \times$ 単位数)の合計を履修登録した総単位数で除した1単位あたりの成績平均値のことです。

## 失格（受験資格喪失）

当該授業科目の規定授業時間数（半期7.5回、15回、通年30回）の2／3以上出席しないと失格になり、試験が受けられません。

## 授業計画（シラバス）

授業内容の概要を記載したもので、履修登録をする際には必ず熟読してください。講義概要、講義要項などと呼ばれることもあります。一般的に授業科目名、担当者名、授業の目的と概要、授業の到達目標、授業計画、学習上の留意事項、授業外学習の指示、成績評価基準、テキスト、参考書、その他受講に際して必要な事項が記されています。

## 授業形態

授業実施方法のことで、次の5つに分けられます。

- 1) 講義 …… 教員が学生に対し、説明することを主として知識を授ける授業方法のことです。
- 2) 演習 …… 教員の講義とともに、学生も討議・発表等を行いつつ指導を受ける授業方法のことです。
- 3) 実験 …… 理論や推論が正しいかどうかを、一定の条件で試してみる授業方法のことです。
- 4) 実習 …… 実地について学習する授業方法のことです。
- 5) 実技 …… 実際に身体を用いて行う授業方法のことです。

開講時期・期間で区分すると、次の3つになります。

- 1) 通年 …… 1年間、毎週授業が行われます。
- 2) 半期 …… 前期あるいは後期の半年間、毎週授業が行われます。
- 3) 集中 …… 休業期間中などに、短期間（3～6日間程度）で授業が行われます。

## 除籍

学費未納等の理由により、遡って在籍していなかったものとみなされることです。

## 進級要件（看護学科のみ）

2年次から3年次に進級するために必要な条件のことです。単位の修得状況が定められた基準を満たさない場合、原級に留め置きとなります。

## せ 成績評価

単位を授与する際の基準と表記方法を示すものです。本学では、試験成績と平常成績を総合して判定し、90点以上をS、80点～89点をA、70点～79点をB、60点～69点をC、60点未満を不と表記することにしています。

## 選択科目

履修する、しないを自由に決められる科目のことです。

## 選択必修科目

複数の科目のうちから、1科目あるいは複数の科目を選んで単位を修得しなければならない科目のことです。未修得の場合は卒業が認められません。

## そ 卒業要件

卒業に必要な条件のことです。次の2つをともに満たさなければいけません。

- 1) 4年以上在学していること。休学の期間は含まれません。
- 2) 学科の課程を修了するのに必要な単位数を修得していること。

## **た** 退学

卒業前に、病気・その他やむを得ない事情で大学を辞めることです。

## **単** 単位

授業科目の内容に必要な学修量（時間）を示す基準のことです。所定の単位数を積み上げることにより、卒業できる制度のことを単位制といいます。

## **単** 単位互換

協定を結んだ他大学の授業科目を履修し修得した単位を、本学の授業科目を履修し修得したものとみなすことができる制度のことです。

## **単** 単位の認定

本学では、成績評価がS，A，B，Cの場合、これを合格として単位を認定します。それ以外は不合格ですので、単位は認定されません。

## **つ** 追試験

病気等やむを得ない事由により、試験を受験できなかった者に対して実施する試験のことです。

## **ひ** 必修科目

必ず単位を修得しなければならない科目のことです。たとえ1科目でも未修得の科目があれば、卒業が認められません。

## **ふ** 復学

休学者が大学に復帰することです。

## **へ** 編入学

異なる制度の学校から第1学年の途中または第2学年以上に入学することをいいますが、短期大学を卒業して、大学の第3年次に入学するケースが一般的です。

## **ほ** 補講

休講により生じた授業時間数の不足を補うために実施される授業のことですが、休講がない場合でも、授業の進み具合によって実施されることがあります。

## **り** 履修

授業を受けて学修することです。

## **履** 履修登録

どの授業科目を履修するか意思表示を行うことです。